

2025年度 学校要覧

2025 COLLEGE BULLETIN



Tokyo Metropolitan College of Industrial Technology
東京都立産業技術高等専門学校

Slogan

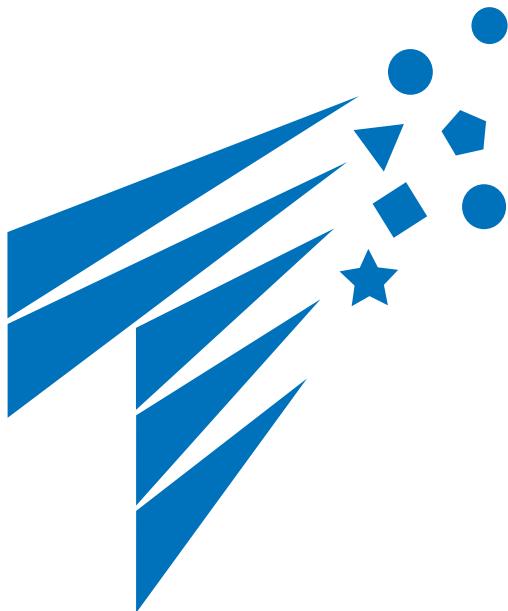
未来をつくる人をつくる。

Statement

高速で進化を続ける産業技術が、
未来を切り拓く若い力を求めていきます。

都立産技高専は、次代のエンジニアを育成する力レッジ。
5年間で、高度な専門知識と技術力、豊かな創造力、
世界で活躍できるコミュニケーション力を育みます。
ここからの進学・就職は、未来をつくる夢への一歩。
一人ひとりに、大きな可能性が用意されています。

Symbol Mark



ダイナミックT

シンボルマーク(ダイナミックT)は本校の新しいスローガン「未来をつくる人をつくる。」の制定と同時に、次代のエンジニアを育成するカレッジである本校をシンボライズするものとして作成されました。

左側は東京(Tokyo)と技術(Technology)の頭文字のTをモチーフにして、未来に向けた本校のダイナミックな活動や成長とともに、ここに勇躍してくる若者の才能と活力、未来への可能性を象徴しています。また、右側の弾け飛び球、三角、四角などの形態は、ここから生み出される斬新なアイデアやそれによりもたらされる豊かな生活の広がりを表現しています。



校章の由来

工業の代名詞でもある「歯車」をモチーフにし、産業技術高等専門学校が二つのキャンパスから成り立ち、二つのかみ合わせで更に大きな力を発揮することを表しています。また、2個の歯車は、ローマ字の S を表しており、「産業技術高等専門学校」の頭文字となっています。

東京都立
産業技術高等専門学校校歌

作詞 本川 喜子
作曲 原田 和則

一、光さすビルの谷間は目覚め

若い命の叡智をあつめ

優しさ 力と 知恵あわせ

先端技術の華咲く首都東京

われらが担う創造は

平和と福祉に役立つ産業技術

二、高まる地球の熱気をも超え

われら 燃える夢を託し

大地を 海を 空を越え

ものづくりへ 導く東京工学

宇宙を結ぶ開発の

革新・発展・誘う産業技術

目次

校長あいさつ	1	ロボット工学コース	17
高等専門学校（高専）とは	1	航空宇宙工学コース	18
都立産技高専の特徴	2	医療福祉工学コース	19
トピックス	3	情報セキュリティ技術者育成プログラム	20
本校の使命、教育理念、 学習・教育到達目標、3つのポリシー	4	航空技術者育成プログラム	21
JABEE「技術者教育プログラム」認定について	8	医工連携 教育・研究プロジェクト	22
本科 ものづくり工学科	10	スタートアップ教育支援プログラム「地道計画」	23
一般科目	11	専攻科 創造工学専攻	24
機械システム工学コース	12	キャンパスライフ 1年間の行事	26
AIスマート工学コース	13	クラブ・同好会	27
電気電子エネルギー工学コース	14	主な取組・学生支援	28
情報システム工学コース	15	カーボンニュートラル /SDGsへの取組	32
情報通信工学コース	16	施設	34
		資料編～DATA BOOK～	35



校長 吉澤昌純

本校は、「首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストの育成」を使命とし、早期の一貫した実践的教育により、産業界から高い評価を得てきましたが、一方で科学技術の急速な発展による高度化やボーダーレス化が進む産業界においては、より高度な専門知識と技術・技能を兼ね備え、国際的に活躍できる中核技術者が求められています。

こうした状況を踏まえ、東京都においてものづくり教育を担う高等教育機関である本校は、都民や産業界のニーズに的確に応える技術者を輩出するための多様な取組を行っています。

まず、全校的な取組として、国際的に通用する工学教育プログラムの継続的な改善による教育の質の保証があげられます。また本校から巣立つ学生たちが臆することなく海外で活躍する第一歩として、様々な国際交流事業、海外体験プログラムを提供しています。また2023年度からは、起業に触れ、アントレプレナーシップを醸成するスタートアップ教育支援プログラム「地動計画」を開始しました。

コースの特徴を生かした取組としては、産業界からの強い要望に応えるため、2016年度に情報セキュリティ技術者育成（品川キャンパス）・航空技術者育成（荒川キャンパス）という2つの実践的技術者育成プログラムをスタートさせました。これらの修了生は、プログラムで学んだ実践技術をベースに、情報セキュリティ関連企業や航空関連企業において活躍しています。

次いで2021年度には、品川キャンパスにコンピュータやAIを積極的に活用したデジタルもののづくりを学ぶAIスマート工学コースと、次世代の情報産業基盤を支える人材を育成する情報システム工学コースを設置、また荒川キャンパスではIoTとAI技術の社会実装を学ぶ未来工学教育プログラムを始め、医工連携共同研究プログラム、医工連携ビジネスプログラムという3プログラムからなる医工連携教育・研究プロジェクトを提供しています。

さらに2025年度、電気電子工学コースのカリキュラムを改編、電気電子エネルギー工学コースと名称を変更し、ゼロエミッション東京戦略の実現に向け、社会の発展と持続のために技術革新に挑戦し続けるグリーンデジタル人材の育成を行います。

本校はこうした取組を着実に進め、様々な発展や進化により、新たなものづくりを牽引する技術者を育成することで社会に貢献し続けます。

高等専門学校（高専）とは

1950年代半ばから始まった我が国の目覚ましい経済成長を支え、科学・技術の更なる進歩に対応できる技術者育成という産業界からの強い要請に応え、1962年に12の国立高専と共に、東京都立工業高等専門学校、東京都立航空工業高等専門学校という2つの公立高専が設立されました。それから63年を経た現在、全国に国公私立をあわせ58校の高専が設置されています。

高専では、中学校卒業時の早い段階から本科で5年間、専攻科進学の場合は更に2年間一貫の実践的専門教育を行い、産業の生産現場で中堅的な役割を果たすことができる技術者の育成を目指しています。

本科では学年制を基本として一般科目と専門科目をくさび型に配し、1年次より段階的に専門科目を増やすことにより、無理なく大学とほぼ同程度の専門的な知識・技術を身につけられるよう工夫されています。

また専攻科では本科で学んだ工学の基礎に加え、より高度で専門的な学問・技術を学ぶことにより、創造的・実践的な技術者の育成を目指しています。

高専の本科卒業生は準学士と称することができ、専攻科2年を修了すると、学士（工学）の学位を取得できます。

高専は7年以内ごとに国が認めた認証評価機関による機関別認証評価を受審しており、他にも様々な外部評価により、教育の質の保証と教育研究水準の向上を図っています。

都立産技高専の特徴

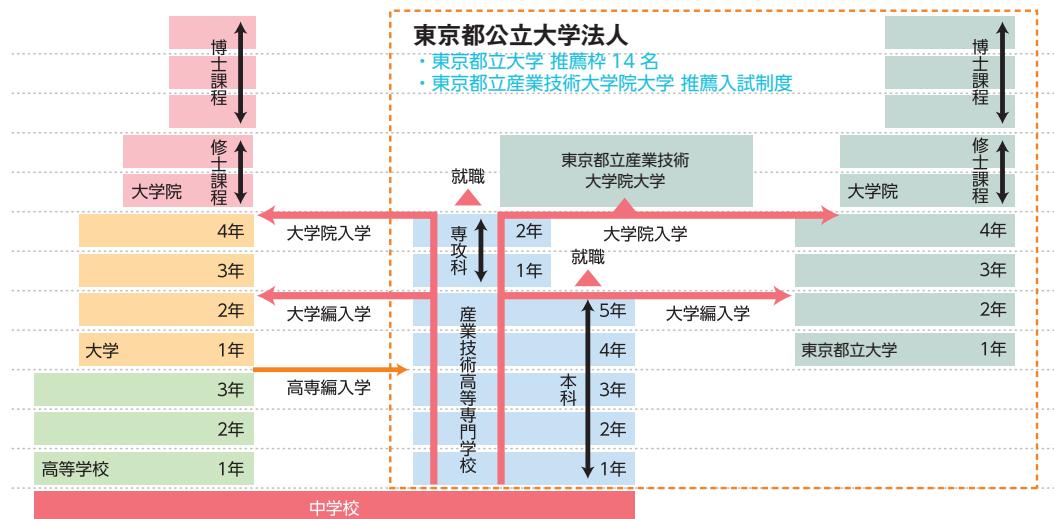
東京都立産業技術高等専門学校（都立産技高専）は、首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストを育成する公立高専として、2006年に都立工業高専と都立航空工業高専が統合・再編されて開校しました。

その後、2008年には公立大学法人首都大学東京（現在、東京都公立大学法人）に移管され、首都大学東京（現在、東京都立大学）、東京都立産業技術大学院大学、東京都立産業技術専門学校の3つの高等教育機関が、同じグループとなり、連携が強化されました。具体的には、本校専攻科から東京都立産業技術大学院大学への推薦入試制度や東京都立大学への編入学推薦枠が設置され、学校間の共同研究も推進されています。さらに、都立工業高校からの編入学制度もあり、本校は、首都東京において、多様なキャリアパスを持った技術者教育の中核的な役割を担う教育機関となっています。

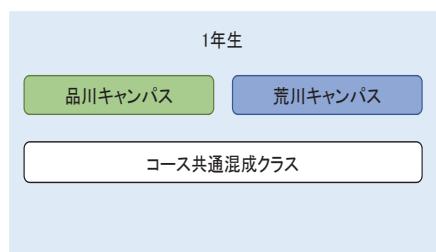
都立産技高専の本科は、ものづくり工学科1学科のみで、2つのキャンパスには、社会の多様なニーズに応えるための特徴的な教育コースを設置しています。1年次に混成クラスで共通の授業を受け、2年進級時にコースを選べるコース選択制が採用されています。

さらに、学校全体で国際化を推進し、ICTを積極的に活用するなど、学生の教育環境の改善に努めるとともに、校内塾による学生への補習体制やキャリア支援教育など、学生への支援体制も充実しています。

就職や大学進学、卒業後の多様な進路



本科（ものづくり工学科）



● DCON2024 にて産技高専品川キャンパス 「Technology 七福神」が最優秀賞を受賞しました！

2024年5月11日（土）に開催された第5回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト2024（DCON2024）にて、産技高専品川キャンパス「Technology 七福神」が最優秀賞を受賞しました。また、企業賞としてアクセスネット賞、さくらインターネット賞、ソフトバンク賞もあわせて受賞しました。

DCONとは高等専門学校生が日頃培った「ものづくりの技術」と「ディープラーニング」を活用した作品を制作し、その作品によって生み出される「事業性」を企業評価額で競うコンテストです。DCON2024には全国から72チーム（31高専）が参加しました。

「Technology 七福神」は詐欺電話をリアルタイムで検知し、詐欺の可能性推移を表示して音声などで知らせることで利用者に詐欺であることを被害にあう前に通知するプロダクト「Fraud Shield AI」を開発しました。



● アイデア対決・全国高専ロボットコンテスト2024 にてロボット研究同好会(荒川キャンパス)が大活躍！

2024年9月22日（日）、千葉ポートアリーナで、「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2024 関東甲信越地区大会」が開催されました。

2チームが出場し、Bチーム「荒飛魚」が特別賞（東京エレクトロン株式会社）を受賞し、Aチーム「飛行星X」がアイデア賞を受賞し、審査員の推薦により全国大会に出場することができました。

また、地区大会の結果を受けて2024年11月17日（日）に両国国技館で開催された「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2024全国大会」では、「飛行星X」が全国26チームと熱戦を繰り広げました。惜しくも二回戦で敗退しましたが、最後まであきらめずにチャレンジしたことが評価され、東京エレクトロン株式会社から特別賞を授与されました。



● サッカー部（荒川キャンパス）が全国大会に出場しました！

2024年9月14日（土）～18日（水）にかけて開催された第57回全国高等専門学校サッカー選手権大会にサッカー部が出場しました。関信越大会を勝ち抜いての本校サッカー部の全国大会出場は実に航空高専以来24年ぶりで、産技高専荒川となってからは初出場となりました。

結果は惜しくもベスト16で敗退となりましたが、大会を通して、全国のライバルの取り組みや真剣さ、直向きさ、一生懸命な姿を目の当たりにし、肌で感じ、経験できたことは今後の大きな一歩となりました。



本校の使命、教育理念、学習・教育到達目標、3つのポリシー

◆ 本校の使命

首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストの育成

◆ 本校の教育理念

《ものづくり工学科》

使命を実現するために、科学技術の高度化、複合化、グローバル化に迅速に対応できる応用力、創造力を有した実践的技術者を育成する。

《創造工学専攻》

より深く精緻な知識と技術を教授し、専門分野における研究を指導することにより、総合的実践的技術者を育成する。

◆ 本校の学習・教育到達目標

学習・教育到達目標		必要とされる能力	具体的な目標	
			本科	専攻科
A 学習力	総合的実践的技術者として、自主的・継続的に学習する能力	①学習計画を立てる力	シラバス等を基に、他の科目との関連性を考慮しながら学習目標を立案できる。その学習目標を基に、具体的な学習計画を立案できる。	
		②学習計画に基づいて学習する力	学習計画に基づき自発的に学習することができる。	
		③学習計画を評価し、改善する力	学習状況を把握し、計画を改善しながら学習することができる。	
		④継続的に学習する力	継続的かつ自発的に学習することができる。 強い探究心を以て課題の発見や解決に努める姿勢が身についている。	
B コミュニケーション力	総合的実践的技術者として、協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に考え、適切に表現する能力	①論理力	論理的に考える力	論理的に考えることができる。
			論理的に表現する力	自らの考えを論理的に口頭及び文章で表現することができる。
		②協働力		情報や他者の考えを理解し、チームで協力して物事に取り組むことができる。
		③プレゼンテーション力	卒業研究の発表会等において、分かりやすい説明を行うことができる。	学会等において、論理的な説明を行うことができる。
		④ディスカッション力	他者の考えも尊重しながら自分の意見を主張することができる。	他者の考えも尊重しながら自分の意見を主張することができる。 他者の意見と自分の意見をすり合わせることができる。
		⑤語学力	正しい言語で表現(記述・口述)することができる。	
C 人間性・社会性	総合的実践的技術者として、産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かな教養をもち、技術者として社会との関わりを考える能力	①社会に対する技術者の役割を考える力	社会の仕組みについての知識をもち、地域社会や産業の要求している内容を把握している。 社会に対する責任や貢献に配慮することができる。	
		②技術者倫理	工学技術が社会や自然に与える影響及び技術者が負う倫理的責任を認識し、技術者としての責任ある行動ができる。	
		③様々な視点から物事を考える力	広い教養と視野をもち、分野をまたいで様々な角度から物事を考えることができる。 また、日本及び諸外国の文化や歴史的背景を理解し、尊重することができる。	
D 基礎力	総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力	①数学力	工学的諸問題の解析や説明に必要な数学の基礎知識を身につける。	工学的諸問題の解析や説明に必要な数学の知識を身につける。
		②自然科学力	工学的諸問題の解析や説明に必要な物理学・化学の基礎知識を身につける。	工学的諸問題の解析や説明に必要な物理学・化学の知識を身につける。
		③専門的な基礎力	専門分野の基礎的な知識と技術を身につける。	専門分野の知識と技術を身につける。

学習・教育到達目標		必要とされる能力	具体的な目標	
			本科	専攻科
E 応用力・実践力	総合的実践的技術者として、専門知識を応用し問題を解決する能力	①基礎的な専門知識を応用する力	身に付けた基礎的な専門知識を応用し、基本的な課題の解決に取り組むことができる。	身に付けた幾つかの基礎的な専門知識を複合して応用し、課題の解決に取り組むことができる。
		②与えられた制約下で問題を解決する力	与えられた制約の下で身に付けた知識を基に問題を解決することができる。	与えられた制約の下で身に付けた知識を基に計画的に問題を解決することができる。
F 創造力	総合的実践的技術者として、工学的立場から地球的視点で社会に存在する問題を発見し、発見した問題を解決する能力	①問題を発見する力	地球的視点から社会に存在する問題を自ら発見できる。	地球的視点から社会に存在する問題を自ら発見し、その問題の本質を整理し説明できる。
		②問題を解決する力	問題に対する解決手法を考えることができる。	問題に対する解決手法を様々な視点から考えることができる。
		③実行力	解決に向け、自ら課題を設定し、専門的知識や技術を動員しその解決を図ることができる。	学会等で成果を、口頭発表または論文発表することができる。
④問題解決手法を公開する力		問題解決について手順・結果・考察を分かりやすく説明することができる。	学会等で成果を、口頭発表または論文発表することができる。	

【ものづくり工学科】

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

（教育理念）

首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストを育成するために、科学技術の高度化、複合化、グローバル化に迅速に対応できる応用力、創造力を有した実践的技術者を育成する。

（求める生徒像）

本校の教育理念に基づいた人材を育成するために、以下の能力と意欲を有する生徒を求めている。

- (1) 向上心を持ち、自分の決めた目標に向けて粘り強く努力できる人
- (2) 高専での教育を受けるのにふさわしい基礎知識・能力を有している人
- (3) 基礎的教養を備え、積極的に協調性のある人※
- (4) コミュニケーション能力を身につけ、世界を舞台に活躍したい人
- (5) ものづくりが好きで、実践的技術者になりたいと考えている人

※編入学者のみ

（入学者選抜方針）

○学力選抜

調査書によって中学校での学習の達成度をみるとともに、高専での学習に必要な基礎学力をもっているかを判断する。

○推薦選抜

調査書によって中学校での学習の達成度をみるとともに、面接や小論文でコミュニケーション能力の有無や実践的な技術者への意欲を判断する。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

ものづくり工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるために、専門科目と一般科目をくわび形に編成した5年間の一貫した教育課程を編成する。2年次より8つの各コースに分かれ、ものづくり技術の修得を図るため、コース必修科目と選択科目を配置している。

（教育課程の方針）

- (1) 学生自らが学習計画を立案し、学習計画に基づいて自主的・継続的に学習を実行する力と、学習方法などの改善に努める力を育成するため、ゼミナール等を配置する。さらに、学習を習慣化するため各科目においては、予習復習・課題等を課すことを目指す。
- (2) 技術者に必要なコミュニケーション能力（集団の中で協調して行動する態度、表現力、プレゼンテーション力およびディスカッション力）を育成するためインターンシップ、国語・外国語等の科目を配置する。

- (3) 持続可能な社会の構築に向け、豊かで幅広い教養を養うため、人文社会系科目・保健体育・芸術を配置する。さらに、技術者の倫理を育成するため、技術者倫理を配置する。
- (4) 第1学年においては、各工学分野の基礎的な知識を横断的に得るため、ものづくり工学科目を配置する。さらに専門分野の知識と技術を養うため、専門基礎科目・数学系科目、自然科学系科目を配置する。
- (5) 第1学年においては、各工学分野の基礎的な技術を横断的に体現するためにものづくり工学実験実習を配置する。さらに専門知識と技術を応用して問題を解決するために必要な実践力を養うため、実験実習科目やエンジニアリングデザイン系科目等の科目を配置する。
- (6) 工学的視点から社会の課題に対し解決に取り組む能力を養うために、卒業研究を配置する。

(実施方針)

- (1) 「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力が、各教育課程でどのように養成されるかを学生が把握できるように、シラバスに修得できる能力を示している。
- (2) 成績評価の公正性と透明性を確保するために、各科目的到達目標に対する達成度を目安として採点し、客観的な評価を行う。

(成績評価)

- (1) シラバスに示す評価方法に基づいて実施する。
- (2) 成績は100点法により採点し、学修の評価は以下の区分による表記で行う。

評価	100～90	89～80	79～70	69～60	59～40	39～0	未履修
評語	S	A	B	C	D	D	E
5段階表記	5	5	4	3	2	1	未履修
合否	合格（またはG）				不合格		未履修

卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストの育成という本校の使命を実現するために、発展する技術に対して常に実践的な知識の習得と能力の習得を日々継続し、産業界を支える人材の養成を目的とし、以下の知識や能力などを身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、卒業者に準学士の称号を授与する。

- (1) 生涯現役技術者として活躍するために、自主的・計画的・継続的に学習する能力を有する
- (2) 協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に思考し、表現する能力を有する
- (3) 産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かで幅広い教養をもち、技術者として責任ある思考と行動ができる能力を有する
- (4) 数学及び自らの専門とする分野の基礎的な知識と基本的な技術を得る能力を有する
- (5) 得た専門知識と技術を応用して問題を解決する能力を有する
- (6) 工学的な立場から地球的視点で社会に存在する問題を発見し、発見した問題を解決する能力を有する

【創造工学専攻科】

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

(教育理念)

首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストを育成するために、より深く精緻な知識と技術を教授し、専門分野における研究を指導することにより、総合的実践的技術者を育成する。

(求める学生像)

- 本校の教育理念に基づいた人材を育成するために、以下の能力と意欲を有する学生を求めている。
- (1) 数学や工学に関する基礎知識を有し、より高度な工学を学ぶ能力と意志のある人
 - (2) 工学について広い視野を持ち、課題に向かって挑戦しようとする意欲のある人
 - (3) コミュニケーション能力を身に付け、科学技術を通して国際社会に貢献したい人

(入学者選抜方針)

○学力選抜

学力試験によって高専本科での学習の理解度をみるとともに、面接で高度な工学を学ぶ意欲及びコミュニケーション能力の有無や各コースが求める要件を満たすか否かを総合的に判断する。

○推薦選抜

推薦書、調査書により、高専本科での学習の達成度をみるとともに、面接で高度な工学を学ぶ意欲及びコミュニケーション能力の有無や各コースが求める要件を満たすか否かを総合的に判断する。

○社会人特別選抜

企業等において一定以上の在職経験を有し、一定水準以上の基礎学力を身につけ、かつ高度な工学を学ぶ意欲及びコミュニケーション能力の有無や各コースが求める要件を満たすか否かを総合的に判断する。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

本校においては、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるために、機械工学コース、電気電子工学コース、情報工学コース及び航空宇宙工学コースの教育課程を編成する。一般科目は8単位以上、各コースの専門科目54単位以上（必修科目20単位以上とその他の科目34単位以上）を修得できるように科目を配置している。

- (1) 学生自らが学習計画を立案し、学習計画に基づいて自主的・継続的に学習を実行する力と、学習方法などの改善に努める力を育成するため、専攻科ゼミナール等を配置する。
- (2) 総合的実践的技術者に必要な、コミュニケーション能力（集団のなかで協調して行動する態度、表現力、プレゼンテーション力およびディスカッション力）を育成ために専攻科インターンシップ、外国語等の科目を配置する。
- (3) 持続可能な社会の構築に向け、豊かで幅広い教養を高めるため、人文社会系科目を配置する。さらに、技術者として法令遵守の理解、社会に対する使命感・責任感の自覚するため、日本学術振興会が提供する「研究倫理eラーニングコース」を修了する。
- (4) 専門性を高めるために、コース共通の共通専門科目を配置するとともに各コースの専門基礎科目を配置する。さらに、技術者としての基礎力を高めるため数学系科目、自然科学系科目を配置する。
- (5) 専門知識と技術を応用して問題を解決するために必要な実践力を高めるため、専攻科エンジニアリングデザイン等の科目を配置する。
- (6) 工学的視点から社会の問題に対して、創造的な解決策を考案する能力を養うため、専攻科特別研究Ⅰ、専攻科特別研究Ⅱを配置する。

（実施方針）

- (1) 「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力が、各教育課程でどのように養成されるかを学生が把握できるように、シラバスに修得できる能力を示している。
- (2) 成績評価の公正性と透明性を確保するために、各科目の到達目標に対する達成度を目安として採点し、客観的な評価を行う。

（成績評価）

- (1) シラバスに示す評価方法に基づいて実施する。
- (2) 成績は100点法により採点し、学修の評価は以下の区分による表記で行う。

評価	100～80	79～70	69～60	59～0
評語	A	B	C	D
合否	合格			不合格

修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストの育成という本校の使命を実現するため、発展する技術に対して先進的な知識の習得及び能力の習得を日々継続し、産業界を牽引する人材の養成を目的とし、以下の知識や能力などを身に付け、所定の単位を修得し、大学評価・学位授与機構の定めた条件を満たした学生に対して、修了を認定し学士（工学）を授与する。

- (1) 生涯現役技術者として活躍するために、主体的・計画的・継続的に学習する能力を有する
- (2) 協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に思考し、表現する能力を有する
- (3) 産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かで幅広い教養を高め、技術者として責任ある思考と行動ができる能力を有する
- (4) 自らの専門とする分野の知識と技術を主体的に得る能力を有する
- (5) 専門知識と技術を応用して問題を解決する能力を有する
- (6) 工学的な立場から地球的視点で社会に存在する問題を発見し、発見した問題を解決する能力を有する

JABEE 「技術者教育プログラム」認定について

本校は JABEE の「技術者教育プログラム」の認定審査により、2022 年 3 月 3 日付けで日本技術者教育認定基準に適合していると認定されました。

① 本校の取組

本校は東京都の産業振興や課題解決に資する「ものづくりスペシャリスト」の育成を使命としています。開校して以来、グローバル化が進む社会に対応すべく様々な教育の取組を進めて参りましたが、その中で、日本技術者教育認定機構 (JABEE *) の教育プログラム認定の受審に向け、2013 年度より専門部会を設置し、2021 年度の審査により適合と認定されました。

この認定を受け、2019 年度入学の専攻科修了生より、技術士国家試験の一次試験免除が認められます。

この認定は本校の教育改善活動と教育質保証が国際的な基準で認められたことを意味しています。今後も継続的な教育改善活動により、より質の高い教育環境の構築を目指して努力していきます。

* JABEE とは

日本技術者教育認定機構 (JABEE : Japan Accreditation Board for Engineering Education 1999 年 11 月 19 日設立) は、我が国の技術者教育の内容・水準の国際的な同等性を確保するため、技術系学協会と密接に連携しながら、技術者教育プログラムの認定・審査を行う一般社団法人です。

② 本校の教育プログラム

品川キャンパス

機械工学プログラム
Mechanical Engineering

電気電子工学プログラム
Electrical and Electronic Engineering

情報工学プログラム
Computer Science

融合工学プログラム
Interdisciplinary Engineering

※融合工学プログラムについては、今後申請予定

荒川キャンパス

創造システム工学プログラム
Systems Engineering

本校は、首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストの育成を使命として、グローバル化に対応した国際的に活躍できる総合的実践的技術者の育成を目指して JABEE を受審し、「教育プログラム」と「学習・教育到達目標」を定め教育を行います。

教育プログラムは、機械工学プログラム、電気電子工学プログラム、情報工学プログラム、融合工学プログラム、そして創造システム工学プログラムの5つからなり、本科 4 年次から専攻科 2 年次までの 4 年間にわたり実施されます。

これらの教育プログラムは、次ページの表に示す学習・教育到達目標を基に、本科でのエンジニアに必要な基礎教育から、専攻科でのより深く精緻な知識と技術の教授と、専門分野における研究の指導により、科学技術の高度化、複合化に対応できる応用力、創造力を有した総合的実践的技術者の育成を目指して設計されています。

表 学習・教育到達目標と JABEE 基準の関係性

		JABEE基準*	
		品川キャンパス	荒川キャンパス
(A) 【学習力】	自主的・継続的に学習する能力	(g)	
(B) 【コミュニケーション力】	協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に考え、適切に表現する能力	(f) (i)	
(C) 【人間性・社会性】	産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かな教養を持ち、技術者として社会とのかかわりを考える能力	(a) (b)	
(D) 【基礎力】	数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力	(c) (d)	
(E) 【応用力・実践力】	専門知識を応用し問題を解決する能力	(d) (e) (h) (i)	
(F) 【創造力】	工学的立場から地球的視点で社会に存在する問題を発見し、発見した問題を解決する能力	(a) (b) (d) (f) (g) (h)	

*表中の大文字のアルファベット(A)～(F)は本校の学習・教育到達目標を、また小文字のアルファベット(a)～(i)は日本技術者認定機構の定める、下記の知識・能力観点を示す

JABEE の知識・能力観点

- (a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
- (b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者の社会に対する貢献と責任に関する理解
- (c) 数学、自然科学及び情報技術に関する知識とそれらを応用する能力
- (d) 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
- (e) 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
- (f) 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
- (g) 自主的、継続的に学習する能力
- (h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
- (i) チームで仕事をするための能力

③ 各教育プログラムの育成する技術者像

機械工学プログラム

機械工学の基盤となる専門知識と、ものづくりの総合的技術・技能に関する実践的応用力を有し、問題発見・分析・解決能力を発揮して、産業界のニーズに的確に応え国際的に活躍する機械技術者を育成します。

情報工学プログラム

情報システムは重要な社会基盤の1つです。この情報システムを設計・構築・運用するためには、情報学および数理情報の基礎知識を習得し、それらを活用する能力が必要です。情報工学プログラムでは、コンピュータ・サイエンスに関する基礎力・実践力を有し、次世代の情報システムを牽引する技術者を育成します。

融合工学プログラム

「機械」、「電気電子」と「情報」の各領域を基盤とする、新たな融合領域における新たなものを創造する必要があります。そのためには、AIを活用したデジタルものづくりが必須となります。AIスマート工学コースでは、デジタルものづくりを基礎とし、新たなIoTシステムを創造する技術者を育成します。

電気電子工学プログラム

現代社会は電気電子技術なしでは成り立つことはできません。世の中は電気電子技術を使用した機器であふれています。しかし、地球環境の保全、限られた資源の有効利用の必要性が高まる中で、エネルギー、エレクトロニクスの各技術だけではなく、これらを統合することで高度知能化・高集積化を可能にする情報・制御技術も必要になります。電気電子工学プログラムでは環境・クリーンエネルギー、エレクトロニクス、情報・制御の分野で活躍できる高度なものづくり技術を修得した技術者を育成します。

創造システム工学プログラム

グローバル化した社会において、高度化、複合化した工学分野の諸問題を解決して「ものづくり」を行うために、基礎となる機械工学技術、電気電子工学技術とそれらを結ぶ情報システム技術について深い専門性を養いつつ、先進的な他の分野の知識と技術を身に付けます。創造システム工学プログラムでは、このような複合的な教育を行うことにより、多角的な視野から問題を解決する能力を備えた創造力農かな、世界に通用する「ものづくり技術者」を育成します。

本科 ものづくり工学科

特 色

本校の使命である首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストを育成するため、ものづくり工学科の教育課程には工夫が凝らされています。

5年間の教育課程の中で、1年次には、ものづくり工学の基礎全般を学習するために共通の科目を履修し、2年次に8つのコースから希望のコースを選択することができます。また、ものづくり技術を修得するために、各コースの実技科目には総開講時数の約3割が配分されています。

ものづくり工学科共通の専門必須科目として、「情報リテラシー」、「プログラミング基礎」、「基礎電気工学」、「基礎製図」、「ものづくり実験実習」の科目が設けられています。また、技術を通して社会に貢献するものづくり技術者を育成するための科目が設置され、首都東京の抱える環境・エネルギー問題、高齢者福祉問題、産業振興に付随する諸問題の解決に、学生が技術的観点から取り組める教育課程となっています。

学科	教育コース（2年次から選択）	キャンパス
本科 ものづくり工学科 (2024年度以前の入学生に適用)	機械システム工学コース Mechanical Systems Engineering Program	品川
	AIスマート工学コース AI and Smart Engineering Program	
	電気電子工学コース Electrical and Electronic Engineering Program	
	情報システム工学コース Information Systems Program	
	情報通信工学コース Information and Telecommunication Engineering Program	荒川
	ロボット工学コース Robotics Program	
	航空宇宙工学コース Aerospace Engineering Program	
	医療福祉工学コース Medical and Welfare Engineering Program	

学科	教育コース（2年次から選択）	キャンパス
本科 ものづくり工学科 (2025年度以降の入学生に適用)	機械システム工学コース Mechanical Systems Engineering Program	品川
	AIスマート工学コース AI and Smart Engineering Program	
	電気電子エネルギー工学コース Electrical, Electronic and Energy Engineering Program	
	情報システム工学コース Information Systems Program	
	情報通信工学コース Information and Telecommunication Engineering Program	荒川
	ロボット工学コース Robotics Program	
	航空宇宙工学コース Aerospace Engineering Program	
	医療福祉工学コース Medical and Welfare Engineering Program	

一般科目



一般科目は、教養、倫理観、健全な心身を有する人間形成を図る教養教育の役割と、科学技術分野で活躍する“ものづくりスペシャリスト”を育成する専門科目の入門となる専門基礎教育の役割をあわせ持つ重要な科目群です。

一般科目の学習効果をあげるために、ものづくり工学科の5年間一貫教育の利点を活かし、後期中等教育段階から高等教育段階へと円滑かつ効果的に移行するようにカリキュラム編成に工夫を凝らしています。

第1学年、第2学年では習熟度に応じて基礎学力をしっかりと身につけられるように補講的な選択科目を配置し、第3学年では、語学科目に少人数授業を導入することにより、実践的能力を身につけられるように配慮しています。さらに、第3学年からは多様な選択科目を設けることで学生各自の志向や興味に応えられるように、教員の専門性や研究成果を活かした魅力ある授業を開催しています。

一般科目の学習を通じ、人間と自然、人間と社会の関係を深く考察するとともに、自然環境と共生し平和な社会構築に貢献するための柔軟な発想力、豊かな創造性、高い倫理観を持った技術者の育成を目指しています。

育成する人材像

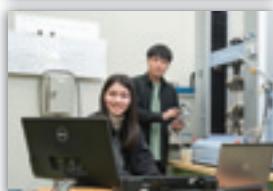
人間と社会および自然、各分野にわたり次の3点を目標にした学生の育成を図る。

- ① 基礎学力をもち、自然科学の概念を理解し、専門分野に応用する力を有した学生
- ② 健康で、社会人としての必要な教養を有した学生
- ③ 現代社会で求められる表現力やコミュニケーション能力を有した学生

カリキュラム・ポリシー

- ① 学生自らが学習計画を立案し、学習計画に基づいて自主的・継続的に学習を実行する力と、学習方法などの改善に努める力を育成するため、ゼミナール等を配置する。さらに、学習を習慣化するため各科目においては、予習復習・課題等を課すことを目指す。
- ② 技術者に必要なコミュニケーション能力（集団のなかで協調して行動する態度、表現力、プレゼンテーション力およびディスカッション力）を育成するためインターンシップ、国語・外国語等の科目を配置する。
- ③ 持続可能な社会の構築に向け、豊かで幅広い教養を養うため、人文社会系科目・保健体育・芸術を配置する。さらに、技術者の倫理を育成するため、技術者倫理を配置する。
- ④ 第1学年においては、各工学分野の基礎的な知識を横断的に得るため、ものづくり工学科目を配置する。さらに専門分野の知識と技術を養うため、専門基礎科目・数学系科目、自然科学系科目を配置する。
- ⑤ 第1学年においては、各工学分野の基礎的な技術を横断的に体現するためにものづくり工学実験実習を配置する。さらに専門知識と技術を応用して問題を解決するために必要な実践力を養うため、実験実習科目やエンジニアリングデザイン系科目等の科目を配置する。
- ⑥ 工学的視点から社会の課題に対し解決に取り組む能力を養うために、卒業研究を配置する。

機械システム工学コース



機械工学は、私たちの生活を支える重要な技術分野であり、その応用範囲は深海探査から宇宙開発まで広がっています。近年、AIやIoT、先端材料科学、ライフサイエンスとの融合により、ロボティクスやスマートファクトリー、持続可能なエネルギー・システムなど、新しい技術領域が次々と誕生しています。こうした技術の進化に伴い、DX（デジタルトランスフォーメーション）やGX（グリーントランスフォーメーション）を推進できる機械技術者の需要が国際的に高まっています。

機械システム工学コースでは、これらの社会の要請に応え、「機械工学の基盤となる専門知識と、ものづくりの総合的技術・技能に関する実践的応用力を有し、問題発見・分析・解決能力を發揮して、産業界のニーズに的確に応え国際的に活躍する機械技術者」を育成することを目標としています。低学年では製図や基礎実習を通じて実践力を養い、学年が進むにつれて、機械力学・材料力学・流体力学・熱力学に加え、材料、加工、制御、データサイエンスなどの専門知識を体系的に学びます。高学年では、設計製図や工学実験を通じて、理論と実践の両面から設計開発能力を高めます。

高学年でのゼミナールや卒業研究を通じて、現代社会が直面する課題に取り組みます。学生は研究室に所属し、指導教員のもとで、課題解決や新技術の創出に挑戦します。この過程で、問題発見・分析・解決能力を身につけるとともに、企画・設計・製作の実践力を養います。さらに、最先端の研究手法やデータ駆動型の科学的思考を習得することで、産業界のニーズや国際的課題に対応できる能力を身につけ、機械技術者としての資質を飛躍的に向上させます。

育成する人材像

- ① 機械工学の基盤となる専門知識を有した技術者
- ② ものづくりの総合的技術・技能に関する実践的応用力を有した技術者
- ③ 問題を発見・分析・解決する能力を有した技術者
- ④ 産業界のニーズに的確に応え、国際的に活躍できる能力を有した技術者

カリキュラム・ポリシー

- ① 学生自らが学習計画を立案し、学習計画に基づいて自主的・継続的に学習を実行する力と、学習方法などの改善に努める力を育成するため、ゼミナール等を配置する。さらに、学習を習慣化するため各科目においては、予習復習・課題等を課すことを目指す。
- ② 技術者に必要なコミュニケーション能力（集団のなかで協調して行動する態度、表現力、プレゼンテーション力およびディスカッション力）を育成するためインターンシップ、国語・外国語等の科目を配置する。
- ③ 持続可能な社会の構築に向け、豊かで幅広い教養を養うため、人文社会系科目・保健体育・芸術を配置する。さらに、技術者の倫理を育成するため、技術者倫理を配置する。
- ④ 機械システム工学コースでは専門分野の知識と技術を養うため、専門基礎科目・数学系科目、自然科学系科目を配置する。専門基礎科目として、
 - (4-1) 機械を知るために必要な基礎知識として、力学系科目を配置する。
 - (4-2) 機械を創るために必要な基礎知識として、設計製図・加工・材料系科目を配置する。
 - (4-3) 機械を動かすために必要な基礎知識として、制御系科目を配置する。
- ⑤ 専門知識と技術を応用して問題を解決するために必要な実践力を養うため、実験実習科目やエンジニアリングデザイン系科目等の科目を配置する。
- ⑥ 工学的視点から社会の課題に対し解決に取り組む能力を養うために、卒業研究を配置する。

AIスマート工学コース



電話がスマートフォンへ、時計がスマートウォッチへ変わったように、様々な「もの」がインターネットにつながりスマート化され進化しています。これからの時代はAIやスマート化技術を活用することで、未来都市の「スマート東京」ができるでしょう。



例えば、自動運転について考えてみましょう。車などのモビリティに搭載されたカメラで撮影した映像データがAIへ送られます。AIはその映像データと大量の蓄積データを照合し、最適なモータの動かし方を考え、スマートな運転を実現してくれます。次世代のものづくりは、これまでの技術×AIにあり、個々のニーズ（欲求）に合ったきめ細かなサービスが実現され、人間中心の新しい未来社会が来るでしょう。



AIスマート工学コースでは、AIを活用し、スマート化技術で「もの」をつくる技術者を育成します。そのために、機械、電子工学をベースにデジタルで「もの」を「かたち」にする技術、「もの」同士を「つなげる」技術、「もの」を「動かす」技術、「AI」を「活用」する技術を実際に体験しながら学びます。

育成する人材像

- ① コンピュータによるデジタルものづくり技術を駆使し、スマートモビリティやロボットなどをデザインしてかたちにできる技術者
- ② ハードウェアとソフトウェアに関する素養を有し、センサ、アクチュエータ、ネットワークを統合したスマート技術をデザインできる技術者
- ③ AIを活用してデータを解析し、人の役に立つものづくりを通して、新しい社会づくりを担うことのできる技術者

カリキュラム・ポリシー

- ① 学生自らが学習計画を立案し、学習計画に基づいて自主的・継続的に学習を実行する力と、学習方法などの改善に努める力を育成するため、ゼミナール等を配置する。さらに、学習を習慣化するため各科目においては、予習復習・課題等を課すことを目指す。
- ② 技術者に必要なコミュニケーション能力（集団のなかで協調して行動する態度、表現力、プレゼンテーション力およびディスカッション力）を育成するためインターンシップ、国語・外国語等の科目を配置する。
- ③ 持続可能な社会の構築に向け、豊かで幅広い教養を養うため、人文社会系科目・保健体育・芸術を配置する。さらに、技術者の倫理を育成するため、技術者倫理を配置する。
- ④ AIスマート工学コースでは専門分野の知識と技術を養うため、専門基礎科目・数学系科目、自然科学系科目を配置する。
 - (4-1) デジタルエンジニアリングの基礎及び3D-CAD・CAM・CAEとその運用法について学習するため、力学や設計、製図に関する科目を配置する。
 - (4-2) スマート技術の基礎について学習するため、ハードウェア、ソフトウェア、センサ、アクチュエータに関する科目及び組込システム、ロボティクス、ネットワークに関連する科目を配置する。
 - (4-3) AIの基礎について学習するため、数理・データサイエンス・機械学習系科目を配置する。
- ⑤ 専門知識と技術を応用して問題を解決するために必要な実践力を養うため、実験実習科目やエンジニアリングデザイン系科目等の科目を配置する。
- ⑥ 工学的視点から社会の課題に対し解決に取り組む能力を養うために、卒業研究を配置する。

電気電子エネルギー工学コース



電気電子工学は、照明、交通、情報通信、エネルギーといった社会基盤を支える技術分野です。インターネット、コンピュータ、スマートフォンなど、情報化社会や知識基盤社会に不可欠なこれらのツールも、電気電子工学によって創造されました。BCI、ハaptivixsなど、エンターテイメントでも利用が期待される新しいアイディアも、電気電子工学によって実用化されつつあります。しかし、技術は社会を発展させてきた一方で、地球の循環システムへ悪影響を与えるという指摘もあり、人類は社会の持続に危惧を抱くようになってきました。

電気電子エネルギー工学コースは、社会の発展および持続のため、技術革新に挑戦し続けるグリーンデジタル人材を育成します。本コースの教育プログラムでは、電気工学、電子工学、情報・制御工学の基礎を低学年で固め、高学年では再生可能エネルギー、パワーエレクトロニクスといった環境への負荷低減技術、ワイヤレス通信、半導体、機械学習といったより高度なデジタル技術を学ぶ機会を提供します。更に、実験、実習、プロジェクトといった体験型の授業では、少人数のチームに分かれて学習することにより、求められるプロダクトやサービスを生み出すために、知識をつなげる力、自身の考えを言葉や数式やデザインを用いて表現する力、多様な価値観をもつ仲間とつながる力を養っていきます。

なお、本コースは電気主任技術者（第2種）の認定校です。必要な科目単位を取得した卒業生は、この資格の国家試験を免除されます。

(2024年度以前に入学した学生は「電気電子工学コース」所属となります。)

育成する人材像

- ① 社会情勢や技術の進歩へ適応し、持続可能な社会の構築に貢献できる技術者
- ② グリーンエネルギーの創生・変換技術及びディジタル・IoT技術を理解し、ハードウェアとソフトウェアを実装できる技術者
- ③ 問題を発見し、自身の知識・実装スキルを駆使し解決に向けて挑戦し続ける技術者
- ④ アイデアを言語化し、自身と異なる能力を有する他者とも協働できる技術者

カリキュラム・ポリシー

- ① 学生自らが学習計画を立案し、学習計画に基づいて自主的・継続的に学習を実行する力と、学習方法などの改善に努める力を育成するため、ゼミナール等を配置する。さらに、学習を習慣化するため各科目においては、予習復習・課題等を課すことを目指す。
- ② 技術者に必要なコミュニケーション能力（集団のなかで協調して行動する態度、表現力、プレゼンテーション力およびディスカッション力）を育成するためインターンシップ、国語・外国語等の科目を配置する。
- ③ 持続可能な社会の構築に向け、豊かで幅広い教養を養うため、人文社会系科目・保健体育・芸術を配置する。さらに、技術者の倫理を育成するため、技術者倫理を配置する。
- ④ 電気電子エネルギー工学コースでは専門分野の知識と技術を養うため、専門基礎科目・数学系科目、自然科学系科目を配置する。
 - (4-1) 電気電子エネルギー工学の基礎となる電気・電子回路、電磁気学、情報処理の科目を低学年に配置する。
 - (4-2) エネルギー、エレクトロニクス、情報・制御に関する専門科目を高学年に配置する。
 - (4-3) 専門知識を活用し、持続発展可能な社会実現に寄与する電気電子回路やプログラムの設計・製作科目を高学年に配置する。
- ⑤ 専門知識と技術を応用して問題を解決するために必要な実践力を養うため、実験実習科目やエンジニアリングデザイン系科目等の科目を配置する。
- ⑥ 工学的視点から社会の課題に対し解決に取り組む能力を養うために、卒業研究等を配置する。

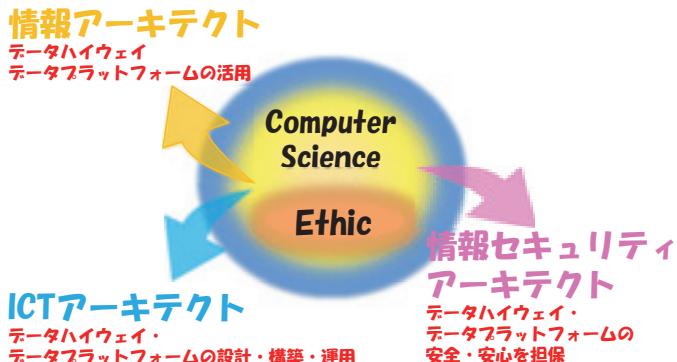
情報システム工学コース



情報システム工学コースでは、

- 1) 高度ICTアーキテクト(情報通信インフラを設計・構築できる人材)
- 2) 高度情報アーキテクト(ビッグデータ、AIを活用できる人材)
- 3) 高度情報セキュリティアーキテクト(情報システムの安全・安心を担保できる人材)

の育成を三本柱とし、コンピュータサイエンスの基礎からICT応用までを学び、日々進化する情報通信技術の活用と構築に必要な知識・技術の修得を目指し、次世代の情報産業基盤を支える人材を育成します。



育成する人材像

- ① 倫理観を有した技術者（必須）
- ② 高度ICTインフラを設計・構築・運用できる能力を備えた技術者（高度ICTアーキテクト）
- ③ 高度ICTインフラを利活用し新たな情報サービスを創出できる能力を備えた技術者（高度情報アーキテクト）
- ④ 高度ICTインフラおよびサービスの安全・安心を担保できる能力を備えた技術者（高度セキュリティアーキテクト）

カリキュラム・ポリシー

- ① 学生自らが学習計画を立案し、学習計画に基づいて自主的・継続的に学習を実行する力と、学習方法などの改善に努める力を育成するため、ゼミナール等を配置する。さらに、学習を習慣化するため各科目においては、予習復習・課題等を課すことを目指す。
- ② 技術者に必要なコミュニケーション能力（集団のなかで協調して行動する態度、表現力、プレゼンテーション力およびディスカッション力）を育成するためインターンシップ、国語・外国語等の科目を配置する。
- ③ 持続可能な社会の構築に向け、豊かで幅広い教養を養うため、人文社会系科目・保健体育・芸術を配置する。さらに、技術者の倫理を育成するため、技術者倫理を配置する。
- ④ 情報システム工学コースでは専門分野の知識と技術を養うため、専門基礎科目・数学系科目、自然科学系科目を配置する。
(4-1) コンピュータサイエンスにおける基礎知識を学習するための科目を配置する。
(4-2) 高度ICTインフラの構築技術を学習するための科目を配置する。
(4-3) 多種多様なデータを収集・処理・分析・提示するための基礎技術を学習する科目を配置する。
(4-4) 情報セキュリティの基礎技術を習得するための科目を配置する。
- ⑤ 専門知識と技術を応用して問題を解決するために必要な実践力を養うため、実験実習科目やエンジニアリングデザイン系科目等の科目を配置する。
- ⑥ 工学的視点から社会の課題に対し解決に取り組む能力を養うために、卒業研究を配置する。

情報通信工学コース



情報通信工学は、IT社会と呼ばれている現代の情報通信技術の基盤を支える技術分野です。特に、「ハードからソフトまで」「LANからWANまで」「有線から無線まで」「海洋から宇宙まで」と、あらゆる場面で情報通信技術のエキスパートが必要とされています。

情報通信工学コースでは、情報通信技術のエキスパートとして活躍できる学生の育成を目指しています。そのために、計算機工学を理解しながら情報処理を学習し、電気電子工学を学習した上で通信工学を学習し、さらに、相互に密接に関連する情報技術と通信技術を並行して学習しています。また、本コースのカリキュラムでは、単に座学で理論を理解するだけでなく、実験・実習を通して、実践的なものづくりの基礎的技術や応用的技術を学習し、「創造実習（第4学年）」などの科目によるものづくりの基礎工程を十分に体験することで、卒業時には課題発見解決型の技術者となることを目指しています。

さらに、本コースでは総務大臣により第二級陸上特殊無線技士および第二級海上特殊無線技士に関する科目内容の確認（電波法第41条第2項第3号、無線従事者規則第31条）を受けており、所定の5科目を履修し単位取得すれば、これらの資格の国家試験が免除されて卒業時に試験を受けることなく免許を取得することができます。

育成する人材像

- ① 情報通信技術を自在に適用できる能力を有した技術者
- ② 実社会で必要な基礎力を習得した上で、即戦力的な応用能力とコミュニケーション能力を有した技術者
- ③ 新しい技術の進歩にも柔軟に対応できる能力を有した技術者
- ④ 新しい使用方法や機能を創造できる能力を有した技術者

カリキュラム・ポリシー

- ① 学生自らが学習計画を立案し、学習計画に基づいて自主的・継続的に学習を実行する力と、学習方法などの改善に努める力を育成するため、ゼミナール等を配置する。さらに、学習を習慣化するため各科目においては、予習復習・課題等を課すことを目指す。
- ② 技術者に必要なコミュニケーション能力（集団のなかで協調して行動する態度、表現力、プレゼンテーション力およびディスカッション力）を育成するためインターンシップ、国語・外国語等の科目を配置する。
- ③ 持続可能な社会の構築に向け、豊かで幅広い教養を養うため、人文社会系科目・保健体育・芸術を配置する。さらに、技術者の倫理を育成するため、技術者倫理を配置する。
- ④ 情報通信工学コースでは専門分野の知識と技術を養うため、専門基礎科目・数学系科目、自然科学系科目を配置する。
 - (4-1) 低学年を中心に電気・電子工学の基礎を学習する科目を配置する。
 - (4-2) 高学年を中心に情報・通信分野の専門科目を配置する。
 - (4-3) 学んだ専門科目の内容を、ソフトやハードで実現できるものづくり能力を学習する科目を配置する。
- ⑤ 専門知識と技術を応用して問題を解決するために必要な実践力を養うため、実験実習科目やエンジニアリングデザイン系科目等の科目を配置する。
- ⑥ 工学的視点から社会の課題に対し解決に取り組む能力を養うために、卒業研究を配置する。

ロボット工学コース



高度な生産技術を支えるだけでなく、“少子高齢化や災害”等、日本が抱える社会問題を解決し、豊かで住みやすい社会を創造するために期待される「ロボット技術」は機械分野、電気・電子・制御分野のいろいろな技術から成る融合技術です。「ロボット技術」は人間の骨格にあたる「機械」、神経にあたる「電気・電子」、反射や運動などをつかさどる「情報・制御」の技術分野から成り立っています。



そこで、本コースでは、「ロボットをテーマとしたものづくり教育」に重点を置きながら、機械系、電気・電子系、情報・制御系の技術をバランス良く教授することにより、広い視野を持った総合技術者の育成に力を入れています。

まず第2学年において、自走ロボットの製作（制御実習）と受動二足歩行ロボットの製作（部品加工・機械組立実習）により、創造的なものづくりの楽しさに触れます。その後、ものづくりの基礎となる力学、加工学、設計製図、機構学などの機械工学科目とロボットを駆動・制御するための電気・電子工学、センサ工学、情報・制御工学などの電子制御工学科目を学習するとともに、併行して実験・実習を行うことにより実践的な総合技術を学びます。

育成する人材像

- ① 少子高齢社会が進む現代において、多様な社会ニーズに対応して人々の暮らしを豊かにするため、ロボットなどの技術を活かす能力を有した技術者
- ② ロボットなどを理解するために必要な機械工学、電気電子工学、計測・制御・情報工学に関する科目の基礎力を有した技術者
- ③ ロボットなどを開発、設計、加工、組立、運転するために必要な実践力を有した技術者
- ④ ロボットなどのものづくりを他者と協同で実現するために必要なコミュニケーション能力や創造力、問題解決能力を有した技術者

カリキュラム・ポリシー

- ① 学生自らが学習計画を立案し、学習計画に基づいて自主的・継続的に学習を実行する力と、学習方法などの改善に努める力を育成するため、ゼミナール等を配置する。さらに、学習を習慣化するため各科目においては、予習復習・課題等を課すことを目指す。
- ② 技術者に必要なコミュニケーション能力（集団のなかで協調して行動する態度、表現力、プレゼンテーション力およびディスカッション力）を育成するためインターンシップ、国語・外国語等の科目を配置する。
- ③ 持続可能な社会の構築に向け、豊かで幅広い教養を養うため、人文社会系科目・保健体育・芸術を配置する。さらに、技術者の倫理を育成するため、技術者倫理を配置する。
- ④ ロボット工学コースでは専門分野の知識と技術を養うため、専門基礎科目・数学系科目、自然科学系科目を配置する。
 - (4-1) ロボットなどの機械機構部の設計・加工・組立に必要な基礎知識として、機械工学系科目を配置する。
 - (4-2) ロボットなどの電気電子回路部の設計・製作に必要な基礎知識として、電気電子工学系科目を配置する。
 - (4-3) 機械機構部と電気電子回路部を統合・融合し、ロボットなどの運転・制御・自律動作を実現するために必要な基礎知識として、計測・制御・情報工学系科目を配置する。
- ⑤ 専門知識と技術を応用して問題を解決するために必要な実践力を養うため、実験実習科目やエンジニアリングデザイン系科目等の科目を配置する。
- ⑥ 工学的視点から社会の課題に対し解決に取り組む能力を養うために、卒業研究を配置する。

航空宇宙工学コース



現在、航空機及び宇宙機は、高速輸送、観測、通信などで利用され、日常の生活になくてはならないものになっています。また、空や宇宙への憧れを実現するものとしての魅力もあります。そして、これら関連機器には最先端で高度な技術が用いられており、さらに安全性や信頼性が強く求められるという特徴があります。



航空宇宙工学コースでは、航空宇宙工学を理解するために必要な基礎学力と、機械・機器の開発、設計、製造などに必要な基礎知識を有する学生の育成を目指しており、航空機、エンジン、ロケット、人工衛星、宇宙機器などを題材として、それらに必要な理論及び技術の教育を実践します。



具体的には、低学年でまず工学一般に関する基礎科目を学習し、航空宇宙工学に関する基礎理論へと発展させます。それら一つ一つの原理は明確であるため、工学を学ぶ題材として最適であり、理解を深めることにつながります。さらに、高学年では設計、製造、開発、利用技術へと内容を深め、それまでに学んだ知識を「航空宇宙機」に集約することにより、システム的に捉える学習をします。

これらの総合的な学習を通して、航空宇宙分野をはじめとして各種の機械・機器の開発、設計、製造などにおいて柔軟に適応できる能力をもち、創造力豊かで応用力のある技術者を育成します。また、これまでの教育に加え、航空技術者育成プログラムとして、航空機整備などの実務に長けた技術者の育成も行っています。

育成する人材像

- ① 航空宇宙工学の学習を充分に理解するために必要な基礎学力を有した技術者
- ② 航空宇宙工学の基礎理論と現象の理解力を有した技術者
- ③ 航空宇宙分野をはじめとする各種の機械、機器の開発、設計、製造などに必要な基礎知識を有した技術者
- ④ ものづくりに必要なチーム力、創造力、応用力および問題解決能力を有した技術者

カリキュラム・ポリシー

- ① 学生自らが学習計画を立案し、学習計画に基づいて自主的・継続的に学習を実行する力と、学習方法などの改善に努める力を育成するため、ゼミナール等を配置する。さらに、学習を習慣化するため各科目においては、予習復習・課題等を課すことを目指す。
- ② 技術者に必要なコミュニケーション能力（集団のなかで協調して行動する態度、表現力、プレゼンテーション力およびディスカッション力）を育成するためインターンシップ、国語・外国語等の科目を配置する。
- ③ 持続可能な社会の構築に向け、豊かで幅広い教養を養うため、人文社会系科目・保健体育・芸術を配置する。さらに、技術者の倫理を育成するため、技術者倫理を配置する。
- ④ 航空宇宙工学コースでは専門分野の知識と技術を養うため、専門基礎科目・数学系科目、自然科学系科目を配置する。
 - (4-1) 低学年では、機械工学などの基礎科目を配置し、その基礎の上に航空宇宙工学の基礎理論を配置する。
 - (4-2) 低学年から航空宇宙機を題材として、その原理に対する理解をより深めるための科目を配置する。
 - (4-3) 高学年では、それまでに学んだことを航空宇宙機に集約することにより、システム的に捉えるための科目を配置する。
- ⑤ 専門知識と技術を応用して問題を解決するために必要な実践力を養うため、実験実習科目やエンジニアリングデザイン系科目等の科目を配置する。
- ⑥ 工学的視点から社会の課題に対し解決に取り組む能力を養うために、卒業研究を配置する。

医療福祉工学コース



医療福祉工学コースは、人々が快適で安心して生活できるしくみに技術面から貢献することをテーマとするコースです。私たちの身の回りでは、あらゆるところで生活の中に技術が応用されています。その中でも特に、医療や福祉の分野はこれから解決に取り組むことが期待される多くの課題が提起されています。



医療福祉工学コースでは、あらゆる分野で活躍可能な技術者を育成するため、医療や福祉をテーマとして学ぶ中で、電気電子工学、機械工学、情報技術を身につけることを目標としています。



第3学年までは、専門基礎科目である電気電子工学、機械工学科目を学習し、ものづくり能力の育成を図り、第4学年以降は、工学分野の基礎理論や技術を土台に、医療福祉分野の専門科目及び、関連科目を学習し、工学的観点から生体の機能や特性を理解し、工学的に人々の生活に貢献する技術の修得を目指します。また、第4学年のゼミナールと第5学年の卒業研究では、学生は数人ごとに希望する研究室に配属され、教員からの直接指導を受けながら、各自の研究テーマに取り組みます。

こうした研究を通じて、創造力と問題解決能力の涵養を図り、幅広い分野で応用できる工学基礎力を身につけた実践的ものづくりスペシャリストの育成を目指します。

育成する人材像

- ① 人々が健康で安全に、安心して快適に暮らせる社会を実現させるための工学技術を有した技術者
- ② 医療福祉機器を開発設計、製作するために必要な電気・電子・機械・情報各工学基礎力を有した技術者
- ③ 人間と機械・機器を繋ぐ技術創造力を有した技術者
- ④ 教員と学生の双方向教育の実践により問題発見とその解決を繰り返し発展させていく能力を有した技術者

カリキュラム・ポリシー

- ① 学生自らが学習計画を立案し、学習計画に基づいて自主的・継続的に学習を実行する力と、学習方法などの改善に努める力を育成するため、ゼミナール等を配置する。さらに、学習を習慣化するため各科目においては、予習復習・課題等を課すことを目指す。
- ② 技術者に必要なコミュニケーション能力（集団のなかで協調して行動する態度、表現力、プレゼンテーション力およびディスカッション力）を育成するためインターンシップ、国語・外国語等の科目を配置する。
- ③ 持続可能な社会の構築に向け、豊かで幅広い教養を養うため、人文社会系科目・保健体育・芸術を配置する。さらに、技術者の倫理を育成するため、技術者倫理を配置する。
- ④ 医療福祉工学コースでは専門分野の知識と技術を養うため、専門基礎科目・数学系科目、自然科学系科目を配置する。
 - (4-1) ものづくりに必要な機械工学の基礎科目を配置する。
 - (4-2) ものづくりに必要な電気電子工学の基礎科目を配置する。
 - (4-3) ものづくりに必要な情報工学の基礎科目を配置する。
 - (4-4) 医療や福祉をテーマに、人々の生活に幅広く応用できる、人間中心のエンジニアリングを学習するため、医療福祉工学の科目を配置する。
- ⑤ 第1学年においては、各工学分野の基礎的な技術を横断的に体現するためにものづくり工学実験実習を配置する。さらに専門知識と技術を応用して問題を解決するために必要な実践力を養うため、実験実習科目やエンジニアリングデザイン系科目等の科目を配置する。
 - (5-1) 実験・実習を通して、実践的なものづくりの基礎的技術や応用的技術を学習する。
- ⑥ 工学的視点から社会の課題に対し解決に取り組む能力を養うために、卒業研究を配置する。

情報セキュリティ技術者育成プログラム

“学生の「礎」を社会と協働して構築する社会を目指して”を合言葉に2016年4月にスタートした情報セキュリティ技術者育成プログラムは、2019年3月に第1期本科プログラム履修生、2021年3月に第1期専攻科プログラム履修生を輩出しました。

この間、情報セキュリティ技術者育成プログラム履修生らは、セキュリティ・キャンプ全国大会参加、KOSEN SECCON 優勝・SECCON CTF 文部科学大臣賞チーム賞受賞、セキュリティ・キャンプ全国大会チューターやNOC (Network Operation Center)、Interop STM (Show Net Member)・Internet Week NOC を担うなど、履修生らの活躍はこれまでに無い大きなインパクトを本校に与えています。

「礎」として情報セキュリティ技術者育成プログラム履修生は、情報セキュリティを学習前に「裁判傍聴」および「弁護士との議論」を通じ「自分と社会」「法と自分」について考え倫理観を醸成します。次に、情報セキュリティ実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（実習時間 225時間）を通じ情報セキュリティに関する基礎的なスキルを習得します。さらに、現役の情報セキュリティ技術者（客員教員）が担当する情報セキュリティ・情報セキュリティ特別実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・情報セキュリティ監査を通じ実践力を習得します。

これらに加え社会貢献活動として、情報セキュリティ技術者育成プログラム履修学生は、中学生向け情報セキュリティ勉強会「サイバーセキュリティ TOKYO for Junior」や中学生向けICT勉強会「ICT基礎Lab. for Junior」を企画・運営します。

現在、高等教育機関で情報セキュリティを学習している学生は多くありません。情報セキュリティを学習することは、キャリア形成において同世代の学生より優位な立場を築くことが可能です。このことは企業の採用プロセスにも変化を生み、これまで新卒採用を行っていなかった企業・学部卒業以上しか採用していなかった企業においても本科卒業生を採用する企業も現れています。

現在、企業との連携・大学との連携を強化し、組織の壁を越えた教育スキーマを構築しています。今後、さらに連携を強化しプログラム履修生の挑戦を支援します。

【産学連携】

富士電機ITソリューション株式会社、株式会社ラック、株式会社オプティム、大日本印刷株式会社、NECセキュリティ株式会社、株式会社ディーゴ、株式会社サイバーディフェンス研究所、株式会社FFRIセキュリティ、パナソニックホールディングス株式会社、株式会社ハートビーツ、ジェイズ・コミュニケーション株式会社、株式会社ユービーセキュア、株式会社セキュアサイクル、アライドテレシス株式会社、株式会社リクルート、フォーティネットジャパン合同会社、株式会社日本レジストリサービス、株式会社NTTデータ先端技術、アルテリア・ネットワークス株式会社、株式会社セキュアスカイ・テクノロジー、株式会社サイバーエージェント、キヤノンITソリューションズ株式会社、みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社、ダイナミックマッププラットフォーム株式会社、株式会社ブロードバンドセキュリティ



【学学連携】

北陸先端科学技術大学院大学、長崎県立大学、電気通信大学

航空技術者育成プログラム

訪日外国人旅行者の増加やその後の航空需要を見据え、首都圏の空港の機能強化と国際化に必要となる航空技術者が求められています。また、新型航空機は複合材化、電動化、インテリジェント化などが進められ、航空技術者に求められる技術知識レベルの高度化が進んでいます。こうした中、航空整備技術を有し、かつ技術知識レベルの高度化にも対応できる人材の育成が急務となっています。

そこで、本校では、航空技術者育成プログラムを構築し、グローバルに活躍できる航空技術者を育成していきます。荒川キャンパス航空宇宙工学コースの2年生から5年生（各学年8名程度）を本プログラムの対象とし、製造に関する航空機製造技術、主にエアライン整備に関する整備技術等を身に付けることができます。

【卒業生の進路】

2023年度 進学2名、大手工アライン3名、鉄道1名

2024年度 進学2名、大手工アライン3名、航空機メーカー3名

2020年度に本校の航空技術者育成プログラムの教員が製作した「航空計器構造及び基本技術を学ぶトレーナー」が、学生の立場にたった教材であると（公社）日本航空技術協会から評価され、「表彰審議会委員長特別賞」を受賞いたしました。これらトレーナーを講義で使用することによって、より実践的で理解しやすい教育を行っています。

2021年度から、体系的かつ実践的な幅広い知識や視野を有し、将来、航空産業の生産分野における指導的な役割を担える人材を育成するとともに、他産業界でも活躍できる人材の育成を目指す目的で航空産業企業と連携した「航空産業人財育成プログラム」が立ち上がり、2023年度には、「E-Learning」、「座談会」、「対面授業」および「フィールドトリップ」の教育が連携企業から提供されました。

【連携企業】

株式会社IHI、川崎重工業株式会社、株式会社SUBARU、三菱重工業株式会社、株式会社ジャムコ、全日本空輸株式会社、日本航空株式会社



医工連携 教育・研究プロジェクト

東京都が掲げる人生100年時代を実現するためには、健康で豊かな生活を支援するシステムや機器の開発が必要です。本校では、技術面からこれらの開発を支えるために、医学と工学分野の融合・複合を可能にする人材の育成を目指し、以下の3つのプログラムを実施しています。

「未来工学教育プログラム」

荒川キャンパス4コースのカリキュラムに加えて、技術潮流に合わせた最先端技術を学ぶ技術者育成プログラムです。現在のテーマは、医工分野で注目されているIoT+AI技術の社会実装です。オブジェクト指向型プログラミングを基本に、データサイエンスや機械学習を学びます。更に、デザイン思考のプロジェクト科目を通して、柔軟な発想力と実践力を身につけます。



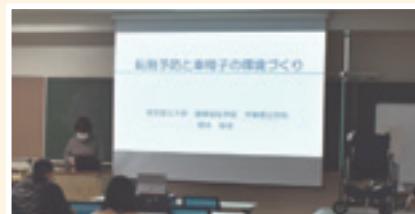
「医工連携共同研究プログラム」

技術者だけでは方向性を見出しが難しい医療福祉分野において、東京都立大学健康福祉学部および近隣医療機関との協働で、パラメディカルや医師との連携による問題解決を試みます。医工両者が多様な視点から共同で研究を行うことにより、シナジーを発揮した開発が期待できます。

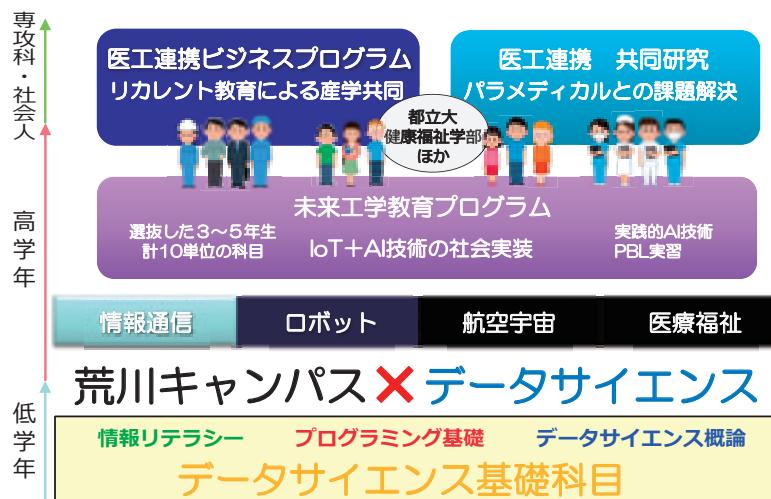


「医工連携ビジネスプログラム」

ウェルネス実現のための医工分野の技術をさらに深めたい技術者や、新たな分野に挑戦したい技術者を対象として、実習演習を重視した基礎から学べるビジネスプログラムです。医療現場の状況や問題点を把握し、新たなサービス・機器の開発が可能な技術者を育成することを目指します。



医工連携教育・研究プロジェクト



スタートアップ教育支援プログラム「地動計画」

産技高専では、新たな価値を生み出すスタートアップへの関心を高め、起業について学生目線で学び、考えるためのスタートアップ教育支援プログラム「地動計画」(以下「地動計画」といいます。) を提供しています。

「地動計画」は参加する学生それぞれが興味を持っている、または疑問に思っているモノゴトからテーマを設定し、新しい視点によるプロトタイプを制作、発表することをスタートティングコースのゴールとしており、さらにアドバンストコースでは参加者それぞれの事業化への計画に対し、先輩起業家からのアドバイスを受けることができます。

第2期となる2024年度は、品川・荒川両キャンパスからスタートティングコース12名、アドバンストコース4名の参加があり、全員が無事修了しました。

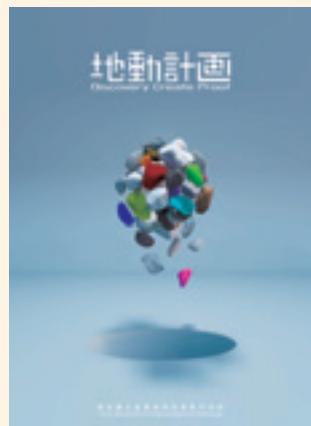
「地動計画」の特徴

「地動計画」の主な活動として、以下の3点があげられます。

- ① 高専生ならではの『ものづくり』を活動の中心として、制作した作品（プロトタイプ）の説明を行い、周りの人たちからフィードバックを得る機会を持つことに重点を置いたスタートティングコース（定員20名）
- ② 具体的に起業をイメージしながら更にものづくりを進め、事業計画を練り、アントレプレナーシップを身に着けることを意識したアドバンストコース（定員5名）
- ③ 起業を知る・意識するきっかけを提供するオンラインツール「産技高専PLAY CAMPUS」（全本科生対象）

「地動計画」は、キャンパスや学年の垣根を超えて、個人で参加するプログラムですが、参加者同士の仲間意識が芽生え、会話がいろいろなヒントになることもあります。活動にあたっては、常にアドバイザーからのサポートが受けられ、プロトタイプを作り上げることで高い達成感も得られます。

地動計画
Discovery Create Project



「地動計画」活動の流れ（2024年度）

〈スタートティングコース〉

- ・4-6月 説明会、ワークショップ、参加申込、参加者決定
- ・7月 活動開始（オリエンテーション、オンライン個別面談等）
- ・8月 フォローアップ、フィールドワーク合宿
- ・9月 プロトタイプ作り込み、進捗共有会、中間報告会、オンライン個別面談
- ・10月 プロトタイプ作り込み加速、成果報告会準備、成果報告会

〈アドバンストコース〉

- ・10-11月 参加申込、参加者決定
- ・12月 活動開始（オリエンテーション、導入プログラム）
- ・1-2月 集中プログラム（先輩起業家相談会）、フォローアップ
- ・3月 成果報告会



初期プロトタイプの共有
(合宿にて)



スタートティングコース
成果報告会



アドバンストコース
成果報告会

専攻科 創造工学専攻

特色

本校の専攻科（大学の学士過程に相当）では、機械工学、電気電子工学、情報工学の三つの学位分野で高度な専門知識及び技術を教授し、国際社会における問題解決能力の育成を行います。また、科学的知識と技術力を基に、リーダーとしての資質・能力を養います。修了生は、特例適用認定専攻科の修了審査に合格することで、大学改革支援・学位授与機構より学士（工学）の学位が授与され、大学院への受験資格を得ることができます。

各コースの特色

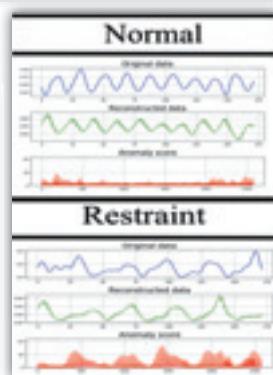
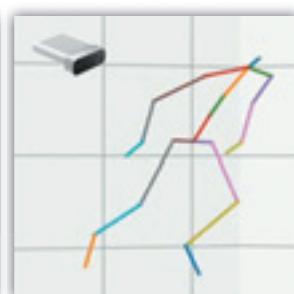
創造システム工学プログラム 機械工学分野（荒川キャンパス）

機械工学分野では、4力という材料力学、流体力学、熱力学、機械力学に加え、生産・加工学、材料学などの基盤技術を学びます。これらの基盤技術を修得し、研究活動やエンジニアリングデザイン教育などの創造性を育むプログラムを通じて、ロボット、航空宇宙、自動車、環境・エネルギーなど幅広い先端技術分野で活躍できる創造性豊かな技術者を育成します。この分野には機械工学コースと航空宇宙工学コースが含まれており、取得できる学位は機械工学となります。



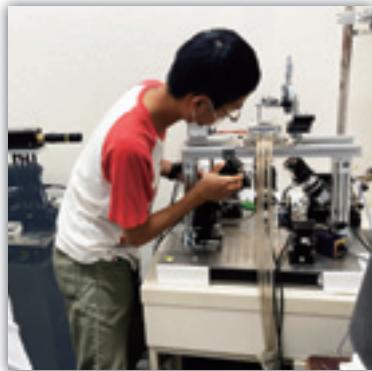
創造システム工学プログラム 電気電子工学分野（荒川キャンパス）

高度にグローバル化した現代においては、以前にも増して電気電子工学が果たす役割が高まっています。特に Society 5.0 を支える IoT やデータサイエンス分野を含み、情報と電気電子分野を横断した教育が必要不可欠です。本コースでは、情報・信号処理、通信技術、電気・電子回路、計測・制御などを学び、AI・情報システム、次世代通信、医療福祉機器などの応用開発が可能な研究力を培います。更にはエンジニアリングデザインを通じて、柔軟な発想力に基づく高度な製品開発が可能な技術者を養成します。



機械工学プログラム 機械工学分野（品川キャンパス）

近年の科学技術の発展に伴い、例えば、DX（デジタルトランスフォーメーション）、バイオテクノロジーと機械工学の融合によって新しい技術分野が誕生するなど、機械工学の包括する分野は更に広範囲にわたり、機械工学を学んだ科学技術者に対する期待は極めて大きいと言えます。本プログラムでは機械工学の基盤となる専門知識と、ものづくりの総合的技術・技能に関する実践的応用力を有し、問題発見・分析・解決能力を発揮して、産業界のニーズに的確に応え国際的に活躍する機械技術者を育成します。



電気電子工学プログラム 電気電子工学分野（品川キャンパス）

地球温暖化問題を解決するためにカーボンニュートラルの実現が求められています。そのためには環境負荷の小さなクリーンエネルギーの活用と、超高効率なエネルギー利用などグリーンデジタル技術が必要不可欠です。グリーンデジタル技術は電気電子工学なしでは成り立つことはできません。電気電子工学プログラムではカーボンニュートラルを実現する技術として環境エネルギー、エレクトロニクス、情報通信、制御システムを修得するとともに、専門分野の異なる他者と協働してグローバルな課題の解決に貢献できる高度なものづくり技術者を育成します。



情報工学プログラム 情報工学分野（品川キャンパス）

情報システムは、重要な社会基盤の1つです。これらの情報システムを支えるためには、情報学および数理情報の基礎知識、およびこれら基礎知識を活用する能力が必要です。すなわち、コンピュータ・サイエンスに関する基礎力および実践力が必須です。情報工学プログラムでは、コンピュータ・サイエンスに関する基礎力・実践力を有し、次世代の情報システムを牽引する技術者を育成します。



本校は2021年度、JABEEの「技術者教育プログラム」の認定審査を受審し、2022年3月3日付で日本技術者教育認定基準に適合していると認められました。そのため、専攻科を修了することにより、JABEE認定プログラム修了者としても認められ、技術士の第一次試験が免除されます。

キャンパスライフ 1年間の行事

4月	■入学式 ■始業式 ■1年生ガイダンス・オリエンテーション(品川・荒川) ■定期健康診断 ■保護者会(品川・荒川)
5月	■2年生校外教室(品川) ■体育祭(品川・荒川)
6月	■前期中間試験 ■保護者会(品川) ■公開授業(品川) ■関東信越地区高専体育大会
7月	■関東信越地区高専体育大会 ■前期期末試験 ■公開授業(荒川)
8月	■前期期末試験 ■全国高専体育大会 ■クラブ夏季合宿 ■インターンシップ(4年生、専攻科) ■関東信越地区高専文化発表会 ■夏休み
9月	■夏休み ■夏季集中授業 ■インターナショナル・エデュケーション・プログラム ■グローバル・コミュニケーション・プログラム ■後期授業開始 ■高専ロボットコンテスト関東甲信越地区大会
10月	■保護者会(品川・荒川) ■公開授業(品川) ■1年生校外学習(荒川) ■2、3、5年生工場見学(荒川) ■文化祭(産技祭・高専祭) ■高専プログラミングコンテスト全国大会
11月	■1、3年生校外教室(品川) ■2年生校外学習(荒川) ■3年生文化行事(荒川) ■4年生校外研修(品川・荒川) ■関東高専体育大会 ■関東信越地区高専英語弁論大会 ■公開授業(荒川) ■高専ロボットコンテスト全国大会 ■後期中間試験(品川)
12月	■全国高専デザインコンペティション ■後期中間試験(荒川) ■冬休み
1月	■冬休み
2月	■専攻科特別研究Ⅰ審査会 ■専攻科特別研究Ⅱ審査会 ■後期期末試験
3月	■卒業研究審査会 ■卒業式 ■専攻科修了式 ■終業式 ■クラブ春季合宿 ■春休み



入学式



1年生オリエンテーション



関東信越地区高専体育大会



高専祭(荒川)



産技祭(品川)



卒業式

クラブ・同好会

クラブ・同好会一覧 (2025年4月現在)

品川キャンパス

運動系	陸上競技部	サッカー部	軟式野球部	ラグビー部	バスケットボール部
	バレーボール部	バドミントン部	卓球部	柔道部	剣道部
	テニス部	ソフトテニス部	水泳部	弓道部	ダンス同好会
	トレーニング同好会				
文化系	吹奏楽部	茶道部	写真部	英語研究部	モバゲー同好会
	軽音楽同好会	謎研同好会	地形分科会	卓上戯研究同好会	映像研究会
技術系	電気通信部	高専ロボコン研究部	ロボカップ研究部	省エネ研究部	プログラミング研究部
	高専デザイン研究部	モデリング研究同好会	模型同好会	DCON 同好会	

荒川キャンパス

運動系	陸上競技部	サッカー部	軟式野球部	バスケットボール部	バドミントン部
	バレーボール部	卓球部	柔道部	剣道部	テニス部
	水泳部	ワンドーフォーゲル部	フットサル部	スキー同好会	ダンス同好会
	ボルダリング同好会				
文化系	音楽部	奇術部	吹奏楽部	民謡研究部	茶華道部
	アナログゲーム同好会	創作活動同好会	折り紙研究同好会	数学クラブ	サブカルチャー同好会
技術系	将棋同好会	戦術研究同好会	家庭科同好会	プラモ同好会	
	航空工作部	人力飛行機研究部	電気通信部	応用物理研究部	海洋環境研究部
	自転車整備部	航空機整備同好会	鉄道ジオラマ部	ロボット研究同好会	宇宙研究同好会

2024年度活動実績

体育大会

関東信越地区高専体育大会は、関東信越地区の10高専の競技大会で、団体戦は優勝および準優勝校が、個人戦は種目の優勝者等が全国高専体育大会に出場できます。

品川キャンパス

●全国大会

全国高等専門学校体育大会	陸上競技部	男子円盤投	2位	男子砲丸投	6位
		男子砲丸投	2位		

●地区大会

関東信越地区 高等専門学校 体育大会	陸上競技部	男子円盤投	2位	全国大会出場
		男子砲丸投	2位	全国大会出場
	バレーボール部	男子	3位	
	テニス部	男子団体	3位	
		男子個人 81kg 級	2位	全国大会出場
	柔道部	男子個人 81kg 級	3位	全国大会出場
		男子団体	1位	全国大会出場

荒川キャンパス

●全国大会

全国高等専門学校体育大会	バドミントン部	男子団体	ベスト8
--------------	---------	------	------

●地区大会

関東信越地区 高等専門学校 体育大会	テニス部	バスケットボール部	男子	3位	
		男子ダブルス		ベスト8	
		男子シングルス		ベスト8	
		女子ダブルス	2位	全国大会出場	
	バドミントン部	女子シングルス	2位	全国大会出場	
		男子団体		優勝	全国大会出場
		女子団体	3位		
	卓球部	女子ダブルス	3位		
		男子シングルス		ベスト8	
	柔道部	男子ダブルス	3位		
		男子個人無差別級	2位	全国大会出場	
		男子個人 66kg 級	3位	全国大会出場	
	パレーボール部	男子	3位		
	水泳部	女子 50m 自由形	2位	全国大会出場	
		女子 100m 背泳	2位	全国大会出場	
	サッカー部	男子	2位	全国大会出場	

コンテスト

品川キャンパス

第5回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト(DCOM2024) 最優秀賞
NESTロボコン2024 サッカーチャレンジ 優勝
ロボカップジュニア2025関東ブロック大会 サッカーライトウェイトワールドリーグ 準優勝, 3位, プレゼンポスター賞 レスキューラインワールドリーグ 3位
第16回全国高等学校鉄道模型コンテスト全国大会 モジュール部門 ベストクリエイティビティ賞
第3回全国高校生リアル脱出ゲーム制作選手権「リアル脱出ゲーム甲子園」 準優勝
第15回ビジネス創造コンテスト区民枠【中学生・高校生の部】 奨励賞

荒川キャンパス

全国高等専門学校ロボットコンテスト2024 関東甲信越地区大会 荒川キャンパス Aチーム アイデア賞(全国大会出場) Bチーム 特別賞 それぞれ受賞
全国高等専門学校ロボットコンテスト全国大会 特別賞(東京エレクトロン株式会社)
第13回全国高等学校鉄道模型コンテスト モジュール部門 ベストクリエイティビティ賞
鳥人間コンテスト2024 滑空機部門 記録 31.89 m
東京都大学吹奏楽コンクール 任意編成部門 銀賞受賞
第35回全国高等学校アマチュア無線コンテスト 430MHz部門 優勝, 144MHz部門 準優勝

主な取組・学生支援

● 情報化の推進

本校では、社会・産業界のICT化進展の中で活躍できるものづくりスペシャリスト・実践的技術者の育成を目指し、様々な情報化の取組を進めてきました。これらの取組をより体系的かつ強力に推進するため、2012年度に情報化推進センターを設置しました。情報化推進センターでは、情報機器を用いた教育手法の検討と開発、データベースを用いた校務状況の一元化（校務支援システム）などによる校務の効率化の推進、情報管理体制の整備などを進めています。

校務支援システムにより学生の学習状況をサポートするために履修状況の確認や授業アンケート等もWeb上で行えるようになっています。Google ClassroomやMicrosoft Teamsを利用して各学年のクラス運営や学内のペーパーレス化を推進し、学内団体との連絡にも活用しています。さらに、クラウド利用を推進し、自己学習環境の整備およびWeb授業の整備を行っています。

● 学生相談

学生の様々な悩みごとや困りごとに対しては、学生相談室が中心となり、学級担任・教科担当・卒研担当・クラブ顧問・学生室・キャリア支援センター（就職・進学）などが対応し、学生が快適な学校生活を送るための支援に努めています。学生相談は臨床心理士であるスクールカウンセラーと、担当教員・看護師が対応しています。

スクールカウンセラーは原則として週2～3回来校し、心の悩みや友人・家族関係のトラブル等の相談に応じ、問題解決の糸口をともに探し出すことに努めています。なお、相談はオンラインでも対応しています。

相談日時の予約は、随時保健室で受付けており、保護者からの予約も受付けています。

また、精神科医のサポートが受けられる体制を作ると共に、両キャンパスに多角的な視点から助言が可能となるよう複数名のカウンセラーを置いて学生相談体制の強化を図っています。



カウンセラーの大澤昇先生

● 運営協力者会議

2010年10月、本校の諸活動について、学校外から広く意見を聴取し、産業界のニーズに合っているか等を定期的に検証するとともに、学校運営に活かしていくため、運営協力者会議を設置しました。この会議の役割は、校長から提起する問題に対する提言と本校の諸活動（教育・研究・産学連携・地域貢献・校務運営等）に対する評価です。会議の構成員は、企業の経営者や管理者、行政関係者、教育関係の有識者の10名程度としています。

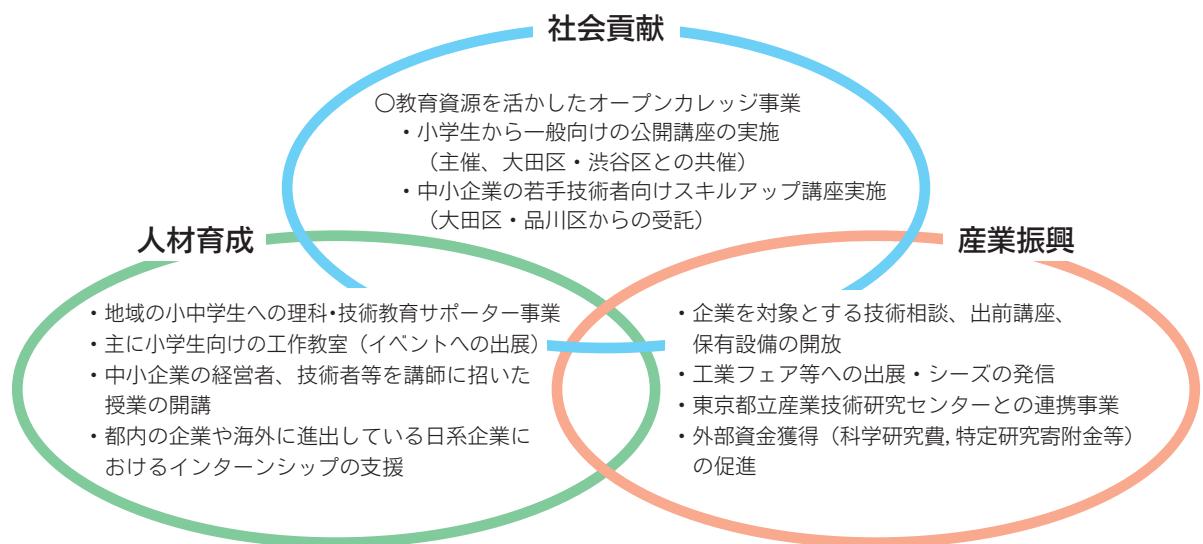


運営協力者会議の様子

2024年度の会議では、第四期中期計画進捗状況報告、電気電子エネルギー工学コース紹介、医工連携プロジェクト未来工学教育プログラム報告の3点についてとりあげ、運営協力者の方々から多くの貴重なご意見をいただきました。

● 地域連携

本校の地域連携活動事業では、人材育成、社会貢献、産業振興の3つの柱を立てて、产学公連携・社会貢献活動を推進していきます。



若手技術者支援のための基礎講座（加工と測定の基礎）



理科・技術センター事業

● 国際化の推進

本校は、国際的な環境で活躍できる技術者の育成を目的として、学生の国際化、教員の国際化、教育環境の国際化を推進するため、2012年度に国際化推進センターを設置しました。それ以後、2大学1高専の学生で編成されたチームがシンガポールで課題解決に挑む「グローバル・コミュニケーション・プログラム(GCP)」、シンガポールの日系企業等で職場体験を行う「海外インターンシッププログラム」(2017年度より休止中)、米国シアトルで語学研修やホームステイなどを行う「グローバルエンジニア育成プログラム」の3つの海外派遣プログラムを実施するとともに、国内プログラムとして、低学年のHRに留学生を招いて交流する「異文化理解プログラム（留学生が先生）」、海外協定校であるニーアン・ポリテクニック（シンガポール）の学生を日本に招いて交流を行う「学生国際交流プログラム」などを実施し、国際化に取り組んできました。2017年度からは社会の要請が強い実践的能力を備えた人材の育成を資するため、海外派遣プログラムについて、新たに企業課題の要素を取り入れたグローバル・コミュニケーション・プログラム(GCP)と米国シアトルの企業見学や語学研修などを行うインターナショナル・エデュケーション・プログラム(IEP)の2つのプログラムへ再編を行いました。

【2024 年度 主な海外派遣プログラム】

(1) 令和 6 年度インターナショナル・エデュケーション・プログラム (IEP)

- ① 海外派遣先：アメリカ合衆国 シアトル
- ② 海外派遣期間：
9月5日（木）から9月14日（土）（10日間）
- ③ 参加人数：40名
- ④ 実施内容：国内における事前学習／現地でのホームステイ、語学研修、先端企業（ボーディング、ヴァジョンエアクラフト等）の工場や施設見学、事後研修（最終報告会での英語プレゼンテーション）、現地学生との交流等



(2) 第 12 回グローバル・コミュニケーション・プログラム (GCP)

- ① 海外派遣先：シンガポール共和国
- ② 海外派遣期間：
8月27日（火）から9月4日（水）（9日間）
- ③ 参加人数：36名 ※リーダー含む
- ④ 実施内容：
 - ・国内での事前学習（3月～8月）
リーダー研修、全体研修（月1回程度）、課題学習（リーダー指導のもと各チームの学習テーマ（課題）に応じた調査、課題の分析等）、英語学習（日常会話研修、英語プレゼンテーション研修）、国内合宿（2泊3日）、TOEIC受検
 - ・海外プログラム（9月）
チーム毎のフィールドワーク、現地学生交流、現地企業等訪問、英語によるプレゼンテーション
 - ・国内での事後学習（10月、11月）：最終報告会での英語による発表、TOEIC受検、振り返り



● キャリア支援

低学年から始まる キャリアデザイン サポート

本校では学生の皆さん1人ひとりがキャリアをデザインし、希望の進路選択を行うことができるよう、低学年から様々な行事や講座を用意しています。5年間を通して専門性と人間力を培うことで、毎年安定した就職内定率・大学進学率を維持しています。

● キャリア支援プログラム

		1・2年生 将来の自分をイメージする	3年生 進路選択の基礎づくり	4年生 就職力・進学力の育成	5年生 就職・進学活動
学校行事	オリエンテーション(1年) コース説明会(1年) コースガイダンス(2年) 校外学習(2年)	校外学習	コースガイダンス 校外研修	就職支援 キャリアカウンセリング エントリーシート・面接指導	進学支援 入試対策指導・願書指導・面接指導
キャリア支援	キャリア通信	進路ガイダンス キャリア支援講座 キャリア通信 OB・OG懇談会	スキルアップ講座 応募書類作成・面接対策・就職ガイダンス・大学ガイダンス・大学入試説明会・企業説明会 インターンシップ支援 ガイダンス・企業説明会・保険説明会・直前指導・報告会 キャリア通信 OB・OG懇談会		
学生各自	資格取得 (2~5年)	TOEIC	TOEIC SPI		
保護者		進路説明会	進路説明会		

● 女子学生向け支援講座「高専女子キャリア＆ライフ」の開催

女性技術者としての生き方や生涯にわたるキャリアプランを考える機会として支援講座を開催しています。本講座では講演会形式や座談会形式で企業で活躍している女性講師から「働く女性の現状」「今、自分がやらなくてはいけないこと」「自分なりのキャリアの積み重ね方」「ライフステージの変化への対応」など様々なお話を伺うことができます。また、女子学生から日頃の悩みや疑問について積極的に情報交換が行われ、大変盛り上がっています。



これからも、様々な形式で、女子学生のキャリア支援を継続的に実施していきます。

カーボンニュートラル / SDGsへの取組

東京都公立大学法人は、2021年7月に日本の国公立大学としては初となる「気候非常事態宣言」を発出し、さらに2024年7月には、同じく日本の国公立大学として初めて「ネイチャーポジティブ宣言」を発しました。

本校でも、学生、教職員によるカーボンニュートラル／SDGsなど、環境に配慮した取組が少しずつ広がってきていますので、活動の一部を紹介します。

なお、東京都公立大学法人の取組につきましては、「東京都公立大学法人 環境報告書2024」をご覧ください。

https://www.houjin-tmu.ac.jp/sustainability/environmental_report_2024/



環境に配慮した研究

太陽光発電大量導入に向けた電力需給調整システム～教育現場からの意識醸成～

ものづくり工学科電気電子エネルギー工学コース 准教授 川崎 憲広

私の研究室では、電力系統運用に関する電力需給調整システムの研究を行っており、特に再生可能エネルギーの大量導入における課題の解決をテーマとしています。また本校で研究活動を行いながら、研究室に所属する学生とともに、自ら課題解決に向けて考え、行動する力の育成や、2025年度にスタートした電気電子エネルギー工学コースが目指すカーボンニュートラル社会の実現に貢献できる人材の育成・輩出、意識醸成にも力を入れています。

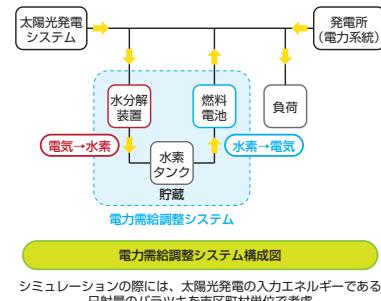


【水素エネルギー等を活用した電力需給調整システム】

将来、再生可能エネルギーの大量導入が進む社会が訪れます。太陽光発電などの設備で大規模に発電された場合、周波数変動などにより電力の安定供給に影響が生じます。その課題を解決する方法の一つとして、水素貯蔵を電力需給調整システムとして活用することが考えられています。この方法では、太陽光発電によって発生する余剰電力を水素に変換して貯蔵し、必要に応じて電力として供給します。水素は大容量で貯蔵でき、輸送が容易であるという特性を持っていますが、変換効率が悪いためロスが生じます。このため、効率を向上させる手法の検討も必要です。

私の研究では、電力需給が円滑になるような、電力供給・送配電網のあり方、水素製造・貯蔵の設備の規模などを電力会社単位で検討するために、主に数値シミュレーションを行っています。将来の太陽光発電の導入量を想定し、余剰電力が発生せずに、コストも最小化するような水素の貯蔵容量や運用方法を提示することで、このシステムの導入可能性を定量的に示せると考えています。

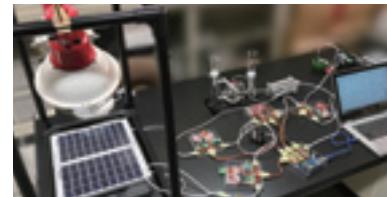
一方で、教育的な観点からは、卓上実験装置（小規模模擬系統）を作成し、実際に運用できるかどうかを確認する実験を行っています。これを通じて、学生たちが回路を設計し、実際に組み立て、運転することで、課題解決の力を身に付けられるように、実験手法についても日々工夫しています。



シミュレーションの際には、太陽光発電の入力エネルギーである日射量のバラツキを市区町村単位で考慮

【カーボンニュートラルを実現できる人材を育成・輩出する】

前述の研究や高専で学ぶ内容は、学生たちがカーボンニュートラルを意識するための教育にもつながっていると感じています。私が教える際には、技術面だけでなく、問題は何か、そしてそれをどのように解決していくかという、課題解決までのプロセスを身につけることに重点を置いています。また、伝える力を養うために、プレゼンテーションで専門外の人が理解できるような説明を意識するよう指導しています。こうした力は、学生が将来社会に出た際に、外部へ発信していく力につながると考えています。



小規模模擬系統による電力需給調整の実験の様子

学生たちが柔軟に考え、様々なコミュニティとのつながりの中で得た経験を生かして研究成果をあげていく姿にはいつも驚かされます。学生時代に培った力を、ぜひ将来の活躍に活かしてほしいと思います。カーボンニュートラルを達成するためには、社会全体の意識を変えていく必要がありますが、電気が当たり前にある生活に慣れた消費者にその意識を変えてもらうのは難しいことです。また、それを無理に強制することも適切ではないと考えています。人々が意識せずともカーボンニュートラルな社会が実現するよう、技術が社会を支える構造を作り出すことも重要だと思います。私は技術面の研究と人材育成・輩出を通じて貢献したいと考えています。

環境に配慮した取組

未来工房プロジェクト「熱遮断による室内的温度変化」について

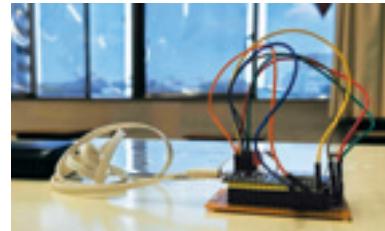
高専には、ものづくりに関する様々なアイデアやチャレンジを学生から募り、採択された活動を支援する「未来工房プロジェクト」があります。

2024年度、品川キャンパスの4年生3名がこのプロジェクトにおいて、地球温暖化が進み、まだ電気代が高騰する中、日常生活で簡単に手に入る材料を使い、効果的に室内温度を変化させる方法についての実験を行いました。

「未来工学プロジェクト」では、高専生らしいロボットの製作やシステム開発などを始めとする多岐にわたるアイデアが登場しますが、この実験では学生自らが地球温暖化を身近な問題として認識し、実現可能な方法で少しでも室内温度の上昇を抑えるにはどうすればよいかと考察を行った点が意義深いと考えます。

【実験の概要】

教室では席により温度差が発生するため、効率的な室温調整について考えたことをきっかけとして、8月の日中、品川キャンパスの3教室の条件の異なる12カ所に、自作の温度測定モジュールを設置、エアコンのON/OFFや窓の熱遮断方法（遮光フィルム、断熱シート、簾）等の条件設定を変え、10分毎の自動測定で収集した温度データをもとに、各々の温度上昇の特徴や差異についての考察をまとめることとしました。



【測定モジュール（温度センサ）】

【考察・結論】

- 窓側の直射日光が当たる席は、日昇前から窓に断熱シートを貼付することで温度上昇が抑えられるが、遮光フィルムと簾は日を通してしまって、晴れた日には温度上昇抑制に向かない
- サーメキュレーターを稼働させた場合、正午頃までは温度が下がり続け、その後上昇する。つまり早い時間帯に冷たい空気を循環させることで温度は下がり、この空気がなくなることで上昇に転じることが考えられるため、正午頃から冷房を使用することで効率的にある程度快適に過ごせるのではないかと仮説を立てた
- 今回使用した各材料の特性（遮光フィルム：日射熱を大幅にカットする、断熱シート：シートに含まれる空気層により熱の伝達を遅らせるが光が通らないため室内が暗くなる、簾：光を遮断しながら風を通すことで熱が通りにくい。使用時に水をかけると2度ほど周辺温度を下げる）を含め総合的に考慮すると、戸建て住宅では屋外に水で濡らした簾を設置し、集合住宅の場合は遮光フィルム、隣家と接近している場合は目隠しの効果も考え断熱シートの設置が好ましいと考える



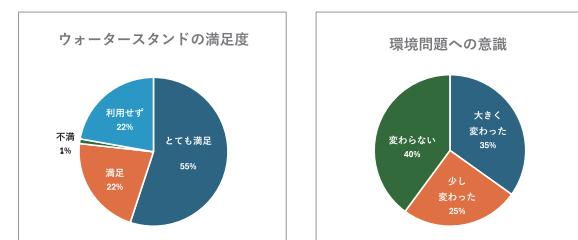
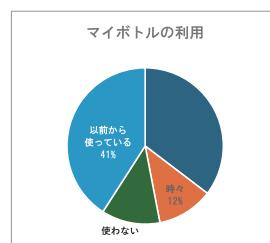
【左から遮光フィルム、断熱シート、簾を窓に貼った様子】

ウォータースタンドの設置による行動変容

2024年6月半ばから約1か月半、学生室と事務室が中心となり荒川キャンパス食堂の一角に試験的にウォータースタンドを設置し、学生・教職員の利用を促しました。

連日30度を超える猛暑が続いている時期ということもあり、本校でも自動販売機横のごみ箱にペットボトルが溢れ返る光景が見られていきましたが、大型の水筒やボトルにも直接給水できるウォータースタンドは大いに歓迎され、ゴミ削減にも一定の効果が見られました。

この効果を明確にするため、ウォータースタンド利用者を中心に、学生・教職員へのアンケート調査を実施しました（一部抜粋）。ウォータースタンドの設置は大変好評でしたので、今後も継続を検討していきます。



施設

図書館

図書館は、品川キャンパス図書館・荒川キャンパス図書館の2館で構成されており、本校の学習・教育・研究を支援するために相互に協力してサービスを提供しています。

蔵書数は2館合わせて約14万8千冊、工学系の専門書のほか、一般教養に役立つ書籍や雑誌を備えており、これらの蔵書の情報は自宅からもインターネットを通じて検索が可能です。

また、地域貢献のため、都内または近郊地域に在勤の技術者、都内または近隣地域に在学あるいは在住の中学生・高校生を対象として、図書館開放を行っています。



品川キャンパス



荒川キャンパス

科学技術展示館（荒川キャンパス）

都立航空工業高等専門学校の頃から教材として使用してきた飛行機、ヘリコプター、航空用エンジンなどの実物を含め、人工衛星のミニチュア模型、NHKロボットコンテスト出場ロボットなど、教育的、歴史的に価値のある各種工学機器類を展示・保存しています。航空機関係の展示物においては、わが国でも有数のコレクションであり、日本航空協会から“戦後航空再開時の国産航空機群”として重要航空遺産の認定を受けています。



展示物は教材として利用するほか、一般に公開しています。

資料編 ～DATA BOOK～

目 次

学生の状況	36
定数及び現員	36
入学志願状況	36
進路状況	37
本科	37
専攻科	39
教職員組織	40
教員一覧	40
非常勤講師一覧	42
歴代校長	43
教職員数	43
組織図	44
校務執行体制	45
教育研究活動	46
教育改善研究費による研究活動実績	46
特定課題研究費による研究活動実績	46
外部資金による活動実績	47
開放事業	48
主な取組・学生支援の実績	50
施設情報	51
施設の概要・学校配置図	52
品川キャンパス	52
荒川キャンパス	53
沿革	54

学生の状況

定数及び現員

2025年5月1日現在

本科

	定員	品川キャンパス					荒川キャンパス					合計
		1組	2組	3組	4組	小計	5組	6組	7組	8組	小計	
ものづくり工学科 1年	320	44	44	44	43	175	42	42	42	41	167	342

	定員	品川キャンパス					荒川キャンパス					合計	
		コース				小計	コース				小計		
		機械システム	AI	電気電子	情報システム		情報通信	ロボット	航空宇宙	医療福祉			
ものづくり工学科 2年	320	42	46	41	39	168	35	42	44	41	162	330	
// 3年	320	42	34	44	41	161	40	38	39	40	157	318	
// 4年	320	41	36	38	44	159	35	40	29	39	143	302	
// 5年	320	38	33	33	35	139	38	37	35	43	153	292	

専攻科

	定員	現員	合計
創造工学専攻 1年	32	33	
創造工学専攻 2年	32	35	68

入学志願状況

本科

	2025		2024		2023		2022		2021	
	学力選抜	推薦選抜								
志願者数	351	143	377	138	444	141	439	141	439	153
募集人員	224	96	224	96	256	64	256	64	256	64
倍率	1.57	1.49	1.68	1.44	1.73	2.20	1.71	2.20	1.71	2.39

専攻科

	2025		2024		2023		2022		2021	
	学力選抜	推薦選抜								
志願者数	66	10	78	15	75	13	66	16	79	14
募集人員	22	25	17	25	20	25	16	25	18	25
倍率	3.00	0.40	4.59	0.60	3.75	0.52	4.13	0.64	4.39	0.56

進路状況

本科

卒業生の進路 (2025年5月1日現在)

(人)

	教育コース	性別	2024				2023			
			卒業者数	就職者数	進学者数	その他	卒業者数	就職者数	進学者数	その他
品川キャンパス	機械システム工学コース	男	33	21	9	3	36	25	9	2
		女	6	2	4	0	2	2	0	0
	生産システム工学コース	男	18	6	8	4	31	21	7	3
		女	2	0	1	1	2	1	1	0
	電気電子工学コース	男	31	12	19	0	36	14	20	2
		女	5	2	3	0	7	4	3	0
	電子情報工学コース	男	33	23	10	0	39	17	20	2
		女	6	1	3	2	4	4	0	0
荒川キャンパス	情報通信工学コース	男	32	13	19	0	37	19	16	2
		女	4	4	0	0	4	4	0	0
	ロボット工学コース	男	31	15	10	6	35	21	14	0
		女	5	2	3	0	4	3	1	0
	航空宇宙工学コース	男	33	26	6	1	27	17	10	0
		女	6	5	1	0	4	3	1	0
	医療福祉工学コース	男	36	21	13	2	36	17	18	1
		女	9	6	3	0	3	1	2	0
計			290	159	112	19	307	173	122	12

2024年度 求人状況

	就職希望者数 (人)	求人企業数 (社)
ものづくり工学科	161	1,469

2024年度 就職実績状況 (2025年5月1日現在) 順不同

		教育コース	企 業 名
ものづくり工学科	品川キャンパス	機械システム工学コース	鹿島建設(株)、川田工業(株)、住友電設(株)、フードテクノエンジニアリング(株)、三菱電機ビルソリューションズ(株)、出光興産(株)、花王(株)、サントリーホールディングス(株)、JUKI(株)、第一三共プロファーマ(株)、ダイキン工業(株)、大日精化工業(株)、日本オーチス・エレベータ(株)、(株)日立ハイテク、フジテック(株)、(株)牧野フライス製作所、(株)モデュレックス、レンゴー(株)八潮工場、東京都下水道サービス(株)、(株)JALエンジニアリング、成田空港給油施設(株)、(株)グローバル・アシスト、東京水道(株)
		生産システム工学コース	キヤノン(株)、東洋電機製造(株)、富士電機(株)、丸の内熱供給(株)、リンク情報システム(株)、(株)ジェイエムエンジニアリング
		電気電子工学コース	東急建設(株)、キヤノン(株)、(株)日本海洋科学、富士電機(株)、三菱電機エンジニアリング(株)、(株)JERA、東京電力ホールディングス(株)、(株)アイ・エス・ビー、(株)Cerevo、四国旅客鉄道(株)、東海旅客鉄道(株)(電気・システム系統)、東日本旅客鉄道(株)、(株)エスユース、(株)NHKテクノロジーズ
	荒川キャンパス	電子情報工学コース	アライドテレシスホールディングス(株)、(株)モリタ製作所、東京ガスネットワーク(株)、(株)アオミネクスト、(株)AsianBridge、アルテリア・ネットワークス(株)、(株)アルファシステムズ、NECセキュリティ(株)、NECネットエスアイ(株)、(株)NSD、NTTコムエンジニアリング(株)、(株)NTTデータ先端技術、システム・エボリューション(株)、セコムトラストシステムズ(株)、(株)ティ・アイ・ディ、日本アルゴリズム(株)、富士ソフト(株)、(株)ラック、共立ソリューションズ(株)、(株)ザイマックス、SUBARUテクノ(株)、NECフィールディング(株)、横河ソリューションサービス、(株)セキュアスカイ・テクノロジー
		情報通信工学コース	富士紡ホールディングス(株)、(株)リコー、アイ・システム(株)、(株)NSD、(株)NTTデータフロンティア、オープンテクノロジー(株)、チームラボ(株)、日本デジタル配信(株)、(株)ハイマックス、(株)Medical AI LAB、リンク情報システム(株)、丸文(株)、ザイマックスグループ、(一社)GLJapan、日本電気計器検定所(本社)、NECフィールディング(株)
		ロボット工学コース	アイリスオーヤマ(株)、キヤノンメディカルシステムズ(株)、シチズン時計マニュファクチャリング(株)、島津産機システムズ(株)、(株)ジャノメ、ダイキン工業(株)、(株)トップ、日本たばこ産業(株)、パナソニックコネクト(株)、ミネベアミツミ(株)、(株)LIXIL、(株)JERA、東京電力ホールディングス(株)、東京水道(株)、リアン(株)、(株)Mテック、横河ソリューションサービス(株)
ものづくり工学科	荒川キャンパス	航空宇宙工学コース	フードテクノエンジニアリング(株)、(株)IHI、出光興産(株)、新明和工業(株)、(株)SUBARU 航空宇宙カンパニー、ダイキンエアテクノ(株)、日産自動車(株)、ファンック(株)、フジテック(株)、ぺんてる(株)、北海道イシダ(株)、本田技研工業(株)、三菱重工業(株)、三菱電気ディフェンス&スペーステクノロジーズ(株)、(株)JERA、東京ガスネットワーク(株)、(株)コズム、ANAエンジンテクニクス(株)、(株)JALエンジニアリング、東海旅客鉄道(株)、東京地下鉄(株)、(株)東京メトロ、東日本旅客鉄道(株)、(株)中央エンジニアリング、四季(株)、日本空港テクノ(株)
		医療福祉工学コース	東日本高速道路(株)、IHI運搬機械(株)、キヤノンメディカルシステムズ(株)、(株)ワボタ筑波工場、(株)ジャノメ、第一三共プロファーマ(株)、(株)ニプロ、パナソニック(株)、パナソニックコネクト(株)、浜松ホトニクス(株)、富士フイルム(株)、マブチモーター(株)、三菱電機エンジニアリング(株)、(株)村田製作所 横浜事業所、(株)モリタ製作所、(株)モリタ東京製作所、森永乳業(株)利根工場、理研ビタミン(株)、リンテック(株)伊奈テクノロジーセンター、(株)AXSEED、(株)RayArc、コニカミノルタジャパン(株)、(一社)東京都計量協会、(株)Mテック

過去3年間の大学編入・専攻科進学状況（2025年5月1日現在）順不同

(人)

年度	都立大	長岡技大	豊橋技大	千葉大	農工大	電通大	電機大	産技高専 専攻科	その他(内訳)
2024	13	12	6	3	5	3	1	33	東京工業大3 東京科学大3 新潟大2 九州 工業大2 お茶の水女子大2 北海道大1 福島 大1 東北大1 東京大1 筑波大1 静岡大1 信州大1 埼玉大1 広島大1 京都大1 岐阜大1 岡山大1 横浜国大1 東京理科大3 東京都 市大2 立命館大1 武蔵野美術大1 工学院大1 都立広尾看護専門学校1 東京誠心調理師専門 学校1 桑原デザイン研究所1
2023	12	21	3	2	9	0	2	36	北海道大1 室蘭工業大1 弘前大1 秋田大1 東北大1 東京大2 東京海洋大1 信州大5 岐阜大1 筑波大1 東京医歯大1 お茶の水 女子大1 福井大1 三重大1 大阪大1 九 州大1 曽大3 千葉工大3 東京都市大2 工学院大1 法政大2 早稲田大2 大阪芸大1 デジタルハリウッド大1
2022	9	19	3	2	8	2	1	36	北海道大1 室蘭工大3 東京海洋大1 新潟 大1 宇都宮大1 群馬大3 筑波大1 東京 医歯大1 信州大1 静岡大1 大阪大1 岡 山大1 曽大6 立命館大1 千葉工大1 曽 工大1 埼玉医大1 工学院大1 東海大1 武蔵野美大1 明大1 東京工科大1 長崎総 合科学大1

専攻科

修了生の進路（2025年5月1日現在）

(人)

	年度	性別	修了者数	就職者数			進学者数			その他
				就職	公務員	計	大学院	その他	計	
創造工学専攻	2024	男	32	16	0	16	15	0	15	1
		女	3	1	0	1	2	0	2	0
		計	35	17	0	17	17	0	17	1
	2023	男	35	20	0	20	14	0	14	1
		女	7	6	0	6	1	0	1	0
		計	42	26	0	26	15	0	15	1

2024年度 就職・進学実績状況（2025年5月1日現在）順不同

就職先

(人)

企業名	就職者数
ジー・オー・ピー(株)	2
(株)エヌ・エス・ディ	1
川崎重工業(株)	1
SOLIZE(株)	1
東京エレクトロンデバイス(株)	1
東京都下水道サービス(株)	1
(株)トップ	1
(株)酉島製作所	1
日東電工(株)	1
日本航空(株)	1
日本住宅ローン(株)	1
(株)ハートビーツ	1
パナソニックコネクト(株)	1
富士紡ホールディングス(株)	1
三菱重工業(株)	1
三菱電機エンジニアリング(株)	1
合 計	17

進学先

(人)

進学先	進学者数
豊橋技術科学大学大学院	3
長岡技術科学大学大学院	3
北陸先端科学技術大学院大学	3
筑波大学大学院	2
東京都立大学大学院	2
北海道大学大学院	1
東北大学大学院	1
奈良先端科学技術大学院大学	1
芝浦工業大学大学院	1
合 計	17

教職員組織

教員一覧

品川キャンパス

2025年5月1日現在

職	氏名	本科教育コース（本務）		専攻科（兼務）	
教授	池田 宏	一般科目		専攻科	創造工学専攻
教授	澤田 一成	一般科目		専攻科	創造工学専攻
教授	篠原 知子	一般科目		専攻科	創造工学専攻
教授	田村 健治	一般科目		専攻科	創造工学専攻
教授	中西 泰雄	一般科目		専攻科	創造工学専攻
教授	長森 清	一般科目		専攻科	創造工学専攻
教授	古川 浩洋	一般科目		専攻科	創造工学専攻
教授	山岸 弘幸	一般科目		専攻科	創造工学専攻
准教授	岩田 修一	一般科目		専攻科	創造工学専攻
准教授	海上 順代	一般科目		専攻科	創造工学専攻
准教授	岡島 由以子	一般科目		専攻科	創造工学専攻
准教授	執行 洋子	一般科目		専攻科	創造工学専攻
准教授	島田 佑一	一般科目		専攻科	創造工学専攻
准教授	広瀬 義朗	一般科目		専攻科	創造工学専攻
准教授	福永 堅吾	一般科目		専攻科	創造工学専攻
准教授	宮田 航平	一般科目		専攻科	創造工学専攻
助教	朝倉 横人	一般科目		専攻科	創造工学専攻
助教	石村 広明	一般科目		専攻科	創造工学専攻
助教	福田 浩之	一般科目		専攻科	創造工学専攻
助教	村田 知暉	一般科目		専攻科	創造工学専攻
教授	伊藤 幸弘	機械システム工学コース		専攻科	創造工学専攻
教授	稻村 栄次郎	機械システム工学コース		専攻科	創造工学専攻
教授	工藤 正樹	機械システム工学コース		専攻科	創造工学専攻
教授	栗田 勝実	機械システム工学コース		専攻科	創造工学専攻
教授	齋藤 博史	機械システム工学コース		専攻科	創造工学専攻
教授	長谷川 収	機械システム工学コース		専攻科	創造工学専攻
教授	松澤 和夫	機械システム工学コース		専攻科	創造工学専攻
教授	吉田 政弘	機械システム工学コース		専攻科	創造工学専攻
准教授	君塚 政文	機械システム工学コース		専攻科	創造工学専攻
助教	小柏 悠太郎	機械システム工学コース		専攻科	創造工学専攻
教授	大野 学	A1スマート工学コース		専攻科	創造工学専攻
教授	柴崎 年彦	A1スマート工学コース		専攻科	創造工学専攻
教授	嶋崎 守	A1スマート工学コース		専攻科	創造工学専攻
教授	富永 一利	A1スマート工学コース		専攻科	創造工学専攻
教授	吉田 和樹	A1スマート工学コース		専攻科	創造工学専攻
准教授	浅川 澄人	A1スマート工学コース		専攻科	創造工学専攻
准教授	伊藤 敦	A1スマート工学コース		専攻科	創造工学専攻
准教授	伊藤 聰史	A1スマート工学コース		専攻科	創造工学専攻
准教授	佐藤 孝治	A1スマート工学コース		専攻科	創造工学専攻
准教授	横井 健	電気電子工学コース / 電気電子エネルギー工学コース		専攻科	創造工学専攻
教授	石橋 正基	電気電子工学コース / 電気電子エネルギー工学コース		専攻科	創造工学専攻
教授	榎沢 栄基	電気電子工学コース / 電気電子エネルギー工学コース		専攻科	創造工学専攻
教授	曹梅 芬	電気電子工学コース / 電気電子エネルギー工学コース		専攻科	創造工学専攻
教授	山本 哲也	電気電子工学コース / 電気電子エネルギー工学コース		専攻科	創造工学専攻
准教授	阿部 晃大	電気電子工学コース / 電気電子エネルギー工学コース		専攻科	創造工学専攻
准教授	石崎 明男	電気電子工学コース / 電気電子エネルギー工学コース		専攻科	創造工学専攻
准教授	稻毛 契	電気電子工学コース / 電気電子エネルギー工学コース		専攻科	創造工学専攻
准教授	川崎 憲広	電気電子工学コース / 電気電子エネルギー工学コース		専攻科	創造工学専攻
准教授	相良 拓也	電気電子工学コース / 電気電子エネルギー工学コース		専攻科	創造工学専攻
准教授	宮田 尚起	電気電子工学コース / 電気電子エネルギー工学コース		専攻科	創造工学専攻
助教	磯山 拓都	電気電子工学コース / 電気電子エネルギー工学コース		専攻科	創造工学専攻
教授	岩田 満	情報システム工学コース		専攻科	創造工学専攻
教授	黒木 啓之	情報システム工学コース		専攻科	創造工学専攻
教授	小早川 倫広	情報システム工学コース		専攻科	創造工学専攻
教授	小林 弘幸	情報システム工学コース		専攻科	創造工学専攻
教授	知念 賢一	情報システム工学コース		専攻科	創造工学専攻
准教授	佐藤 喬	情報システム工学コース		専攻科	創造工学専攻
准教授	田中 覚	情報システム工学コース		専攻科	創造工学専攻
助教	大塚 亜未	情報システム工学コース		専攻科	創造工学専攻

ものづくり工学科

荒川キャンパス

職	氏名	本科教育コース（本務）	専攻科（兼務）
教授	乾 展 子	一般科目	創造工学専攻
教授	門 多 嘉 人	一般科目	
教授	齋 藤 純 一	一般科目	創造工学専攻
教授	高 橋 龍 也	一般科目	
教授	田 中 淳	一般科目	創造工学専攻
教授	永 井 誠	一般科目	創造工学専攻
教授	原 田 洋 一 郎	一般科目	創造工学専攻
准教授	大 古 田 隆	一般科目	創造工学専攻
准教授	川 崎 雄 貴	一般科目	
准教授	藏 本 武 志	一般科目	
准教授	河 野 光 将	一般科目	創造工学専攻
准教授	坂 本 宗 司	一般科目	
准教授	竹 居 賢 治	一般科目	
准教授	豊 島 雅 幸	一般科目	創造工学専攻
准教授	藤 吉 大 介	一般科目	
准教授	村 井 宗 二 郎	一般科目	
准教授	矢 吹 康 浩	一般科目	
准教授	吉 田 健 一	一般科目	
助 教	臼 井 智	一般科目	
助 教	小 林 雄 大	一般科目	
教授	鈴 木 達 夫	情報通信工学コース	創造工学専攻
教授	高 野 邦 彦	情報通信工学コース	創造工学専攻
教授	山 本 昇 志	情報通信工学コース	創造工学専攻
教授	若 林 良 二	情報通信工学コース	創造工学専攻
准教授	高 崎 和 之	情報通信工学コース	創造工学専攻
准教授	高 田 拓	情報通信工学コース	創造工学専攻
准教授	平 野 敏 行	情報通信工学コース	
准教授	山 田 美 帆	情報通信工学コース	創造工学専攻
助 教	設 樂 勇	情報通信工学コース	
教授	大 貴 貴 久	ロボット工学コース	創造工学専攻
教授	笠 原 美 左 和	ロボット工学コース	創造工学専攻
教授	鈴 木 拓 雄	ロボット工学コース	創造工学専攻
教授	田 村 恵 万	ロボット工学コース	創造工学専攻
教授	堀 滋 樹	ロボット工学コース	創造工学専攻
准教授	喜 多 村 拓	ロボット工学コース	創造工学専攻
准教授	瀬 山 夏 彦	ロボット工学コース	創造工学専攻
准教授	山 本 広 樹	ロボット工学コース	創造工学専攻
准教授	横 井 元 治	ロボット工学コース	
助 教	加 藤 航 甫	ロボット工学コース	創造工学専攻
助 教	相 樂 勝 裕	ロボット工学コース	創造工学専攻
教授	小 出 輝 明	航空宇宙工学コース	創造工学専攻
教授	小 林 茂 己	航空宇宙工学コース	創造工学専攻
教授	中 野 正 勝	航空宇宙工学コース	創造工学専攻
教授	宮 野 智 行	航空宇宙工学コース	創造工学専攻
教授	山 田 裕 一	航空宇宙工学コース	
准教授	宇 田 川 真 介	航空宇宙工学コース	創造工学専攻
准教授	草 谷 大 郎	航空宇宙工学コース	創造工学専攻
准教授	高 山 和 士	航空宇宙工学コース	
准教授	諫 訪 正 典	航空宇宙工学コース	
准教授	真 志 取 秀 人	航空宇宙工学コース	創造工学専攻
准教授	山 口 剛 志	航空宇宙工学コース	
教授	田 宮 高 信	医療福祉工学コース	創造工学専攻
教授	富 田 宏 貴	医療福祉工学コース	創造工学専攻
教授	福 田 恵 子	医療福祉工学コース	創造工学専攻
教授	星 善 光	医療福祉工学コース	創造工学専攻
教授	吉 村 拓 巳	医療福祉工学コース	創造工学専攻
准教授	青 代 敏 行	医療福祉工学コース	創造工学専攻
准教授	後 藤 和 彦	医療福祉工学コース	創造工学専攻
准教授	柴 田 芳 幸	医療福祉工学コース	創造工学専攻
准教授	杉 本 聖 一	医療福祉工学コース	創造工学専攻
准教授	古 屋 友 和	医療福祉工学コース	創造工学専攻
准教授	吉 田 嵩	医療福祉工学コース	創造工学専攻

ものづくり工学科

非常勤講師一覧

品川キャンパス

2025年5月1日現在(後期のみ担当する講師含む)

氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
青木立	小川広	小宮希流	竹迫良範	平井志郎	皆川和大
阿部毅之	奥澤友菜	齋藤(藤田)文	竹中健祐	深津拡也	村井知光
飯室肇	甲斐康平	坂本竜基	寺田涼	深野あづさ	メレディスグレアムアラン
石田淳一	梶谷眞衣	笹野祐輔	遠山義和	福岡政大	八木史江
板倉由美子	カシャニ メハダッド	佐藤真衣	徳山喜一	福森航輔	柳谷亮彦
伊藤秀明	加藤友規	塙田直子	飛松弦	藤田和子	山口尚紀
岩本貢	兼重仁	塙満栄司	仲田尚央	藤野俊和	山下晴樹
上島光浩	川崎隆哉	渋木英潔	長屋未来	古野誠裕	山本浩史
牛山太陽	川野真樹子	清水雅哉	中山健	増田裕太	吉田聖美
榎本(松本)真俊	菅野公景	下田悠真	成澤哲也	松岡淳子	吉原美響
エバンスガリー	北島薫	蕭明禮	野瀬寿樹	松家拓穂	渡辺伸宏
大川達也	北原直人	鈴木清一朗	芳賀政伸	松本響	渡邊南
大川典男	岸垣暢浩	関英一	羽澤海恕	三神太希	
大保勇人	清住空樹	高野光男	服部博信	三上隼人	
大谷哲	グリフィスイアンレナード	田口結子	半田真士	三隅雅彦	

荒川キャンパス

氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
青木拓郎	大田将之	小高晃	田代裕子	藤野裕之	本久郁子
浅井紀久夫	太田匡則	小林(宇田川)慧子	田村昌一	藤原豊樹	森由美子
阿部賢一	大田黒紘之	小林宏気	千葉晃司	別府俊幸	山岸勝明
阿部廣二	大鳥浩史	小室貴紀	鄭宗秀	本多(清沢)典子	山澤建二
阿部峻靖	小栗英世	小室信喜	露木章史	前田祐佳	山本徹
荒木康太	尾上泰基	齋藤敏治	永野隆敏	松原光昭	山本靖樹
安藤類央	風間道子	坂井彪	成澤哲也	美記陽之介	弓削一憲
石垣雄太朗	金井伸	坂下哲也	西澤正己	源雅彦	横澤宏一
板倉悠真	亀井利久	笹木弘	西山茂丸	蓑手智紀	横山俊幸
一柳隆義	木城哲治	佐藤暢恭	芳賀昭弘	宮川睦巳	吉田慧一郎
稻葉亜貴子	北夏子	佐藤浩久	波多江茂樹	三宅弘晃	吉原美響
井上(野間)和美	木村貴幸	三林洋介	林等	宮田洋一郎	若林裕介
上村光宏	草野湧貴	白井伴和	半田真士	宮坂明宏	和田倫明
生方俊典	久保光徳	進藤卓也	久森紀之	三輪賢一郎	渡邊力夫
エバンスガリー	グリフィスイアンレナード	スウィニー久美子	平野利幸	武藤美咲	
遠藤信一	黒木雄一郎	田上慎	廣瀬裕介	メレディスグレアムアラン	
吳民愛	小久保優	瀧澤駿	藤川卓也	望月尊仁	

歴代校長

歴代	氏名	就任日	歴代	氏名	就任日
東京都立工業高等専門学校			東京都立航空工業高等専門学校		
初代	下坂 實	昭和37年4月1日	初代	徳丸 芳男	昭和37年4月1日
2代	高本 信次郎	昭和45年4月8日	2代	辻田 正巳	昭和40年4月1日
3代	八田 龍太郎	昭和48年4月1日	校長代理	奥村 正夫	昭和47年4月1日
4代	杉原 猪佐雄	昭和54年4月1日	4代	高月 龍男	昭和47年9月1日
5代	加藤 宏	昭和63年4月1日	5代	佐野 元	昭和57年4月1日
6代	飛田 満彦	平成3年4月1日	6代	米満 澄	昭和63年4月1日
7代	吉川 幸宏	平成6年4月1日	7代	布施 正	平成3年4月1日
8代	坂本 守義	平成11年4月1日	8代	山口 重雄	平成5年4月1日
9代	西村 尚	平成14年4月1日	9代	久米 潔	平成8年4月1日
10代	藤田 安彦	平成16年4月1日	10代	羽生 隆昭	平成10年4月1日
11代	荒金 善裕	平成20年4月1日	11代	久保 謙一	平成12年4月1日
			12代	島田 一雄	平成14年4月1日
			13代	長浜 邦雄	平成17年4月1日
			14代	荒金 善裕	平成20年4月1日
東京都立産業技術高等専門学校					
初代	藤田 安彦	平成18年4月1日			
2代	荒金 善裕	平成20年4月1日			
3代	田原 正夫	平成26年4月1日			
4代	渡辺 和人	令和2年4月1日			
5代	吉澤 昌純	令和4年4月1日			

教職員数

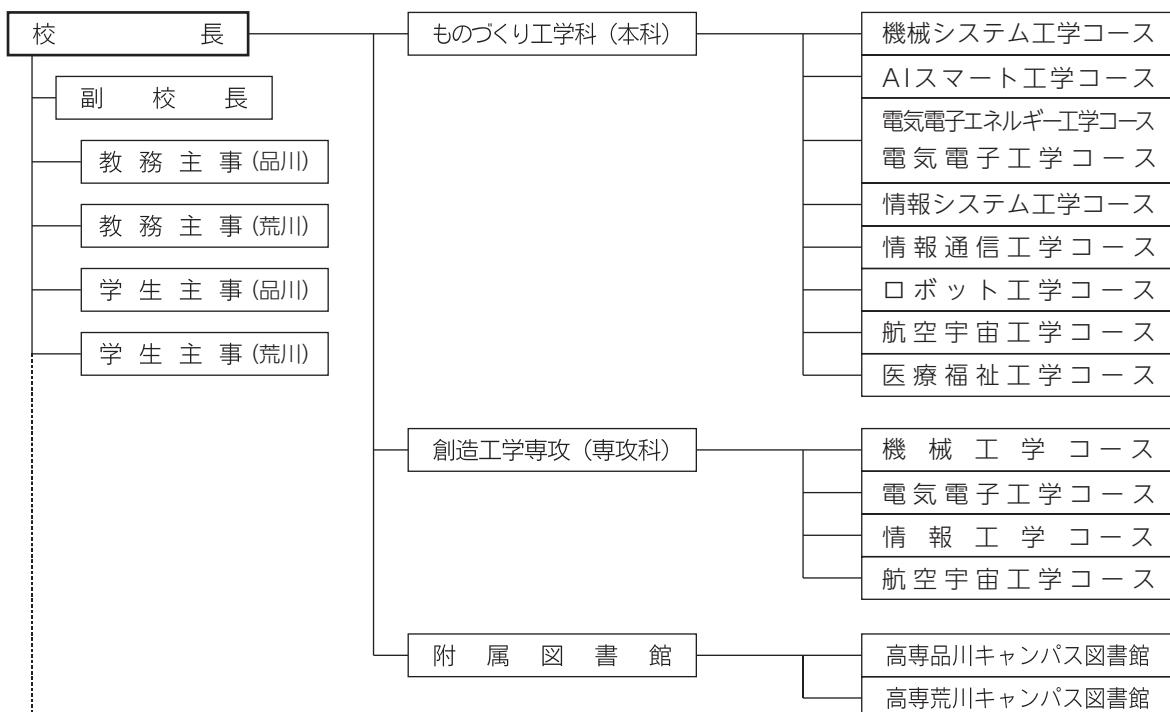
教職員 2025年5月1日在籍者

	教員職員						事務職員等																		
							都派遣						法人												
職種別	校長	副校長	教授	准教授	助教	非常勤講師	管理部長	管理課長	係長	主任	事長	管理課長	正規職員	正規職員	正規職員	正規職員	正規職員	特定任用等	非常勤契約事務	非常勤契約司書	非常勤契約技術				
現員	1	1	55	53	12	144	1	0	1	0	0	2	7	6	21	2	2	2	9	2	11				
品キャンパス			29	22	7	69		0	0	0	0	1	5	3	12	1	1	2	5	1	5				
荒キャンパス	1	1	26	31	5	75	1	0	1	0	0	1	2	3	9	1	1	0	4	1	6				

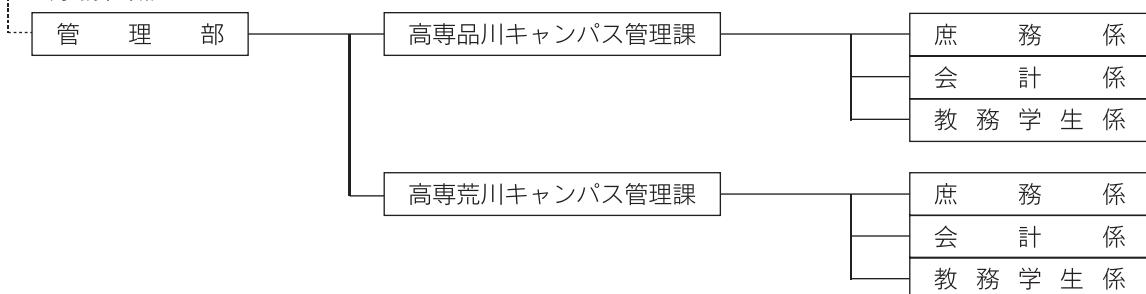
※両キャンパスで勤務している非常勤講師は品川キャンパスに計上

組織図

(教育研究組織)



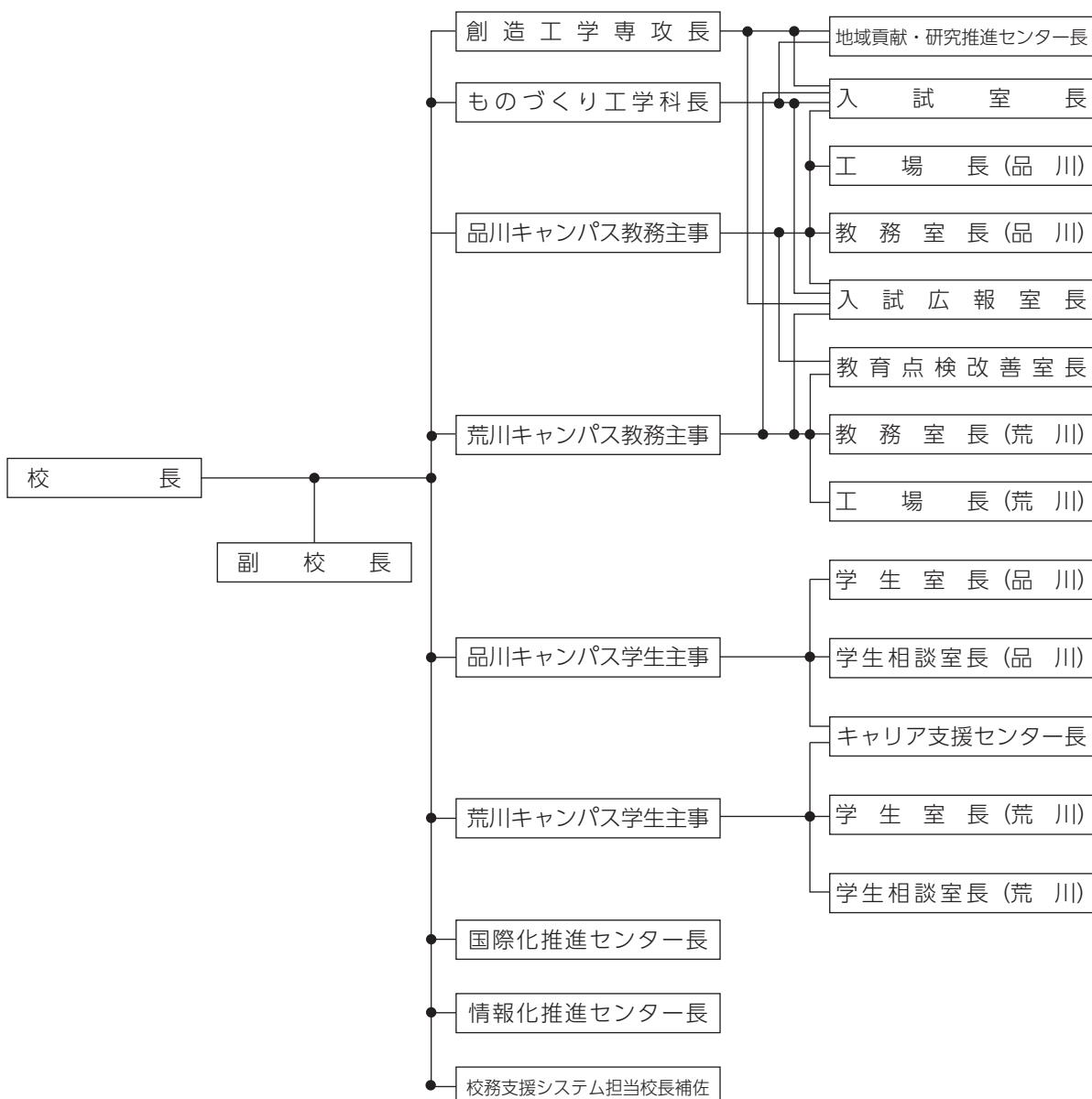
(事務組織)



教育管理職		コース長等		事務組織	
校長	吉澤 昌純	品川 キャンパス	機械システム工学コース長	稻村栄次郎	管理部長
副校長	柴崎 年彦		AIスマート工学コース長	富永 一利	管理課長
教務主事 (品川)	篠原 知子		電気電子エネルギー工学コース長	山本 哲也	庶務係長
教務主事 (荒川)	田村 恵万		情報システム工学コース長	岩田 満	会計係長
学生主事 (品川)	澤田 一成		一般科長	田村 健治	教務学生係長
学生主事 (荒川)	吉村 拓巳	荒川 キャンパス	情報通信工学コース長	若林 良二	企画調査担当係長
ものづくり工学科長	小林 弘幸		ロボット工学コース長	大貫 貴久	入試・広報担当係長
創造工学専攻長	中野 正勝		航空宇宙工学コース長	山田 裕一	学務企画・国際化推進担当係長
附属図書館長	柴崎 年彦		医療福祉工学コース長	富田 宏貴	管 理 課 長
			一般科長	門多 嘉人	庶務係長
					会計係長
					教務学生係長

(2025年5月1日現在)

校務執行体制



校長補佐・センター長		室 長		共同利用施設の長等	
キャリア支援センター長 (キャリア支援担当校長補佐)	田中 淳	教務室長(品川)	佐藤 喬	総合工場長(品川)	齋藤 博史
国際化推進センター長 (国際化推進担当校長補佐)	石橋 正基	教務室長(荒川)	鈴木 拓雄	総合工場長(荒川)	小林 茂己
地域貢献・研究推進センター長	大野 学	学生室長(品川)	伊藤 幸弘	未来工房長(品川)	栗田 勝実
情報化推進センター長 (情報化推進担当校長補佐)	小早川倫広	学生室長(荒川)	齋藤 純一	未来工房長(荒川)	小出 輝明
教育点検改善室長	小早川倫広	学生相談室長(品川)	中西 泰雄	汐黎ホール長	門多 嘉人
校務支援システム担当校長補佐	小林 弘幸	学生相談室長(荒川)	福田 恵子	科学技術展示館長	山田 裕一
		入試室長	池田 宏	(2025年5月1日現在)	
		入試広報室長	山本 昇志		

教育研究活動

教育改善研究費による研究活動実績

教育改善研究費は、高専の教育水準や教育技術の向上を目的とし、各コース等における教育目標を達成するために配分する研究費です。

(単位：千円)

	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年
金額	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000

特定課題研究費による研究活動実績

特定課題研究費は、高専の設置目的や教育目標などの達成のため、以下の3つの研究課題から、公募により、教員個人又はグループに対して競争的、傾斜的に配分する研究費です。

1 重点課題研究

東京都が抱える課題の解決につながる社会科学的、工学的な研究

(単位：千円)

	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年
件数	11	11	12	22	16	18
金額	8,200	8,200	8,200	8,700	12,700	12,000

2 スタートアップ研究

着任1年目から3年目までの教員が、本校における教育・研究活動をスタートさせるにあたり、その基盤となる研究

(単位：千円)

	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年
件数	14	19	14	11	9	10
金額	5,400	8,800	7,000	6,100	4,200	4,900

3 教育課題研究

本校の教育課題を解決するためのプロジェクト型教育研究（コース再編、医工連携の推進、国際的な教育連携推進等）

(単位：千円)

	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年
件数	13	12	12	23	12	13
金額	11,400	8,000	9,800	10,200	8,100	8,100

外部資金による活動実績

1 科学研究費助成事業

学術研究の発展を目的として、文部科学省および日本学術振興会から交付される助成金

(単位：千円)

	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年
件 数	10	13	18	20	15	20
金 額	10,565	12,365	18,900	21,510	22,100	23,680

※ 他大学から本校教員への分担金を含まず

※ 新規採択件数、採択金額（本校教員から他大学への分担金は含む）

2 産学共同研究

企業等から研究費を受入れ、本校教員と企業等の研究者が共同で行う研究

(単位：千円)

	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年
件 数	8	5	9	11	9	12
金 額	12,813	3,131	4,761	5,506	5,991	5,037

3 受託研究

企業等から受託を受けて、委託者の費用負担で行われる研究（提案公募研究含む）

(単位：千円)

	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年
件 数	0	4	2	2	2	3
金 額	0	1,377	2,350	2,350	2,950	6,820

4 特定研究寄附金

企業等からの研究の奨励を目的とした寄附金

(単位：千円)

	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年
件 数	7	6	4	6	7	8
金 額	4,550	3,340	4,250	4,326	13,926	7,707

5 その他（学術相談、都連携以外の受託事業と科研費補助金以外の補助金）

(単位：千円)

	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年
件 数	4	6	6	3	7	5
金 額	3,003	2,603	2,034	1,375	2,799	2,928

開放事業

●2024年度 オープンカレッジ実施状況

1 主催講座

分類	講 座 名	対 象	期 間	キャンパス	受講者数
未来エンジニア	小中学生のための楽しいロボット講座	小学校5・6年生、中学生	8/9、10	品川	20人
	竹とんぼを作つて飛ばそう	小学6年生、中学1年生	8/11	品川	8人
	ペットボトルロケットを作つて遠くへ飛ばすチャレンジをしよう	小学生	8/24	品川	14人
	ペットボトルロケットを作つて遠くへ飛ばすチャレンジをしよう	小学生	8/25	品川	15人
	コロボによるロボットプログラミング	中学生	9/8	品川	2人
	ドローンプログラミングチャレンジ	中学生	10/6	品川	16人
	LEGOによるロボットプログラミング体験	中学生	10/19	品川	4人
	魔法のパイプ?ヒートパイプ	中学生	11/23	品川	7人
	流れについて調べてみよう	中学生	8/10	荒川	7人
	親子で学ぶ最新ものづくり実習(3Dプリンタ編)	小学生5・6年生、中学生	8/17	荒川	10人
	電池の要らない不思議なラジオを作ろう!	中学生	8/17	荒川	9人
	オリジナルモータを作つて電気と磁力を理解しよう	小学生5・6年生、中学生	8/20	荒川	9人
	紙素材を使ってロボットハンドの動きを理解しよう	小学校5・6年生	8/24	荒川	7人
	ペットボトルロケットを作つて思いっきり遠くまで飛ばそう!	小学生	8/25 10:00~12:00	荒川	7人
	ペットボトルロケットを作つて思いっきり遠くまで飛ばそう!	小学生	8/25 13:00~15:00	荒川	9人
	ペットボトルロケットを作つて思いっきり遠くまで飛ばそう!	小学生	8/26	荒川	10人
	“FlyingObjects(飛びモノ)”について学び、英語で楽しく工作	中学生	8/26	荒川	12人
	ロボットを動かそう	小学校5・6年生、中学生	8/31	荒川	8人
	中学生のための人間工学講座～人が使いやすい製品とは？～	中学生	9/7	荒川	4人
生涯学習	体から出てくる電気を見てみよう!	中学生	9/23	荒川	7人
	飛行機の構造を学ぼう!	中学生	10/19	荒川	10人
	エンジンのように回るモータを作つてみよう	小学生	12/1、22	荒川	18人
	Raspberry Piを使ったLINUXによるプログラム・ネットワーク入門	一般(中学生以上)・技術者	8/3、4	品川	21人
	中学生のための小論文講座	中学校2・3年生	8/10、11	品川	23人
	分かる!ビジュアル科学(台風により開講中止)	一般	8/31	品川	0人
	TOEICリスニング講座	一般	9/4、6、11、13	品川	4人
育技術成者	書くためのアイデアの見つけ方	中学生	7/20	荒川	4人
	footism～ふつといづむ～	小中学生	8/19	荒川	7人
	自己PRに役立つ理系中学生のための自分発見講座	中学3年生	11/16	荒川	8人
	高齢者や障害者の生活を支える新しい技術	一般・技術者	11/16、30	荒川	8人
	機械加工・初心者向け体験実習(切削加工・汎用フライス盤作業)	技術者	12/7	品川	3人
	CCNA合格に向けたルータ初心者講座	一般・技術者	12/14	品川	4人
	福祉機器に関するものづくり講座	一般・技術者	11/17	荒川	3人
合 計					298人

2 共催講座等

分類	講 座 名	対 象	期 間	キャンパス	受講者数	共済等相手
未来エンジニア	秋のロボットセミナー	小学4年生～中学2年生	10/20	品川	20名	大田区工業連合会

3 受託講座

分類	講 座 名	対 象	期 間	キャンパス	受講者数	委 託 元
技術者育成	若手技術者支援のための講座(若手技術者向け集合教育) 18:30～20:30	中小企業の若手技術者	9/2～10/18 (全15回)	品川	10人	品川区 (公財) 大田区 産業振興協会
	①「機械設計のための基礎」30H		10/22～11/13 (全6回)		4人	
	②「工業材料の基礎」12H		11/18～12/2 (全6回)		4人	
	③「加工と測定の基礎」12H		11/8～12/13 (全6回)		6人	
	④「ICTの基礎」12H		9/20～10/21 (全8回)			
	⑤「電気回路の基礎」16H (開講中止)		10/22～11/20 (全10回)		10人	
	⑥「シーケンス制御の基礎」20H					
若手技術者支援のための出前講座(講師が大田区内の企業に出向き、企業の希望に沿った講義を行う) 2時間／1回 ※申し込みがなかったため実績なし						

【分類】

- 未来エンジニア育成講座 : 小中学生に対する科学・技術への関心の惹起
 技術者育成講座 : 地元中小企業技術者等に対するリカレント教育
 生涯学習、生涯学習(ものづくり)講座: 生涯学習の機会の提供

4 イベントへの参加

大田区・公益財団法人大田区産業振興協会主催「第14回おおた研究・開発フェア」に出演
 科学技術週間 東京都特別行事「Tokyo ふしぎ祭エンス 2024」に出演

● 体育施設開放事業 2024年度実績

品川キャンパス	開 放 施 設 名	グラウンド	テニスコート	体育館	合 計
	開 放 種 目	サッカー			
	延べ利用団体数	1	0	0	1
	利用者延べ人数	600	0	0	600
	開放日数合計	6	0	0	6

荒川キャンパス	開 放 施 設 名	グラウンド	テニスコート	合 計
	開 放 種 目	サッカー、軟式野球 グラウンドゴルフ、硬式野球	ソフトテニス	
	延べ利用団体数	4	1	5
	利用者延べ人数	1,115	485	1,600
	開放日数合計	18	18	36

主な取組・学生支援の実績

● 國際化推進プログラムの参加状況（人）

(1) グローバルエンジニア育成プログラム(2014年～2016年まで)

	定 員	応募者数	参加人数	渡航先
2014年	40	100	40	米国シアトル
2015年	40	117	40	米国シアトル
2016年	40	114	40	米国シアトル

(3) グローバル・コミュニケーション・プログラム(GCP)(2014年～)

実施年	定 員	応募者数	参加人数	渡航先
2014年	16	25	15	シンガポール
2015年	16	18	16	シンガポール
2016年	16	33	15	シンガポール
2017年	24	36	24	シンガポール
2018年	推薦 一般	24	15 31	シンガポール
2019年	推薦 一般	24	19 29	シンガポール
2020年			中止	
2021年	推薦 一般	30	6 13	4 10
2022年	推薦 一般	30	8 5	8 5
2023年	推薦 一般	30	20 29	10 20
2024年	推薦 一般	30	19 42	10 20

※ 2018年よりインターナショナル・エデュケーション・プログラム参加者からの推薦制度を実施

※ 2020年は新型コロナウイルス感染症により中止

※ 2021年は新型コロナウイルス感染症により渡航せずにオンラインで現地と交流

(2) 海外インターンショップ(2014年～2016年まで)

	定 員	応募者数	参加人数	渡航先
2014年	10	13	10	シンガポール
2015年	10	14	10	シンガポール
2016年	10	20	10	シンガポール

(4) インターナショナル・エデュケーション・プログラム(IEP)(2018年～)

	定 員	応募者数	参加人数	渡航先
2018年	40	91	40	米国シアトル
2019年	40	76	40	米国シアトル
2020年			中止	
2021年	40	40	38	—
2022年	40	38	38	—
2023年	20	86	20	米国シアトル
2024年	40	133	40	米国シアトル

※ 2020年は新型コロナウイルス感染症により中止

※ 2021年、2022年度は新型コロナウイルス感染症により渡航せずにオンラインで現地と交流

● 情報化の推進状況

2015 年度	
情報センター端末 学内ネットワークの更新	・情報演習端末を更新すると共に、学内の基幹接続を 10 Gbps に、末端接続を 1 Gbps に増速 ・無線 LAN 環境を増強し、学内のほとんどの箇所でネットワーク接続が可能に
GoogleApps の導入	・学生のメールシステムとして Google Apps for Education を導入（学外でのメール送受信を実現）
校務支援システムの拡充	・学生による科目到達度の自己評価登録機能を追加 ・科目ポートフォリオの機能を追加、卒業研究・特別研究における活動時間・活動内容の記録と教員によるフィードバックを実現
学術情報ネットワーク更新	・学術情報ネットワークの更新に伴い、本校の学外接続を SINET 5 に移行
2016 年度	
ネットワーク利用環境の整備	・無線 LAN アクセスポイントを増強 ・品川キャンパスにおいて G Suite Classroom の試行を開始
2017 年度	
ネットワーク利用環境の整備	・両キャンパスで G Suite Classroom を使用開始 ・Google Forms を用いて学生の ICT 環境利用度・満足度調査を実施
2018 年度	
ネットワーク利用環境の整備	・学内でのみ提供していたサイネージ情報を学内ネットワーク経由で学生の個人端末で閲覧可能に
演習室の利用促進	・放課後の学生の利用促進のため、情報処理演習室を SA を配置
2019 年度	
ネットワーク利用環境の整備	・2020 年度利用環境リプレイスに向けての検討実施
2020 年度	
ネットワーク利用環境の整備	・荒川・品川両キャンパスのネットワーク機器リプレイス実施
2021 年度	
学術情報ネットワーク更新	・本校の学外接続を SINET6 に移行し、対外接続を 10 Gbps に増強
遠隔授業の整備	・機器等の整備により VWeb 会議を推進
2022 年度	
一部サーバ機能のクラウド化	・アカウント管理のシステムをオンプレミスからクラウドへ移行
2024 年度	
学生ポータルの検討	・デジタルサイネージに代わる学生向けポータルの機能・運用について検討
2025 年度	
学生ポータルの運用開始	

●学生相談室 学生相談件数（延べ件数）

		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	その他	計	合計
2020年度	品川	47	36	52	89	98	29	33	384	534
	荒川	22	36	26	19	20	0	27	150	
2021年度	品川	61	68	95	70	64	38	44	440	655
	荒川	46	25	72	13	23	0	36	215	
2022年度	品川	30	83	62	48	87	16	48	374	585
	荒川	46	44	21	24	23	6	47	211	
2023年度	品川	43	93	60	48	75	22	18	359	572
	荒川	49	35	25	19	35	11	39	213	
2024年度	品川	18	81	60	17	63	3	12	254	452
	荒川	41	28	22	12	47	0	48	198	

その他：保護者等

施設情報

● 2025年度 科学技術展示館一般公開予定日

公開時間：午前10時～午後3時

4月 15日 (火)	ヘリコプターの日
5月 16日 (金)	世界情報社会・電気通信日 (5月 17日の繰り上げ実施)
5月 30日 (金)	電波の日 (6月 1日の繰り上げ実施)
9月 19日 (金)	空の日 (9月 20日の繰り上げ実施)
10月 14日 (火)	鉄道の日
12月 1日 (月)	鉄の日
12月 17日 (水)	ライト兄弟初飛行の日
3月 25日 (水)	電気記念日



●図書館蔵書数 (2025年5月1日現在)

(単位：冊)

分類	品川キャンパス	荒川キャンパス
0 総記	4,976	4,941
1 哲学	1,699	2,096
2 歴史	4,198	5,035
3 社会科学	5,996	5,660
4 自然科学	11,238	10,764
5 工学	21,220	20,878
6 産業	839	911
7 芸術	3,404	3,517
8 語学	3,552	2,774
9 文学	15,130	10,766
なし その他	4,655	3,915
合計	76,907	71,257
内洋書数	4,204	5,749

開館時間
品川キャンパス／平日 8:30～19:00
荒川キャンパス／平日 9:00～18:00
面積／座席数
品川キャンパス／面積 1,020m ² 座席数 86席
荒川キャンパス／面積 1,100m ² 座席数 94席



施設の概要・学校配置図

品川キャンパス

● 施設の概要

1 土地

校地総面積	37,134.15 m ²
-------	--------------------------

2 建物

	延べ床面積
校舎	29,904.70 m ²
体育館	2,520.55 m ²
体育棟	516.69 m ²
プール棟	1,197.60 m ²
計	34,139.54 m ²

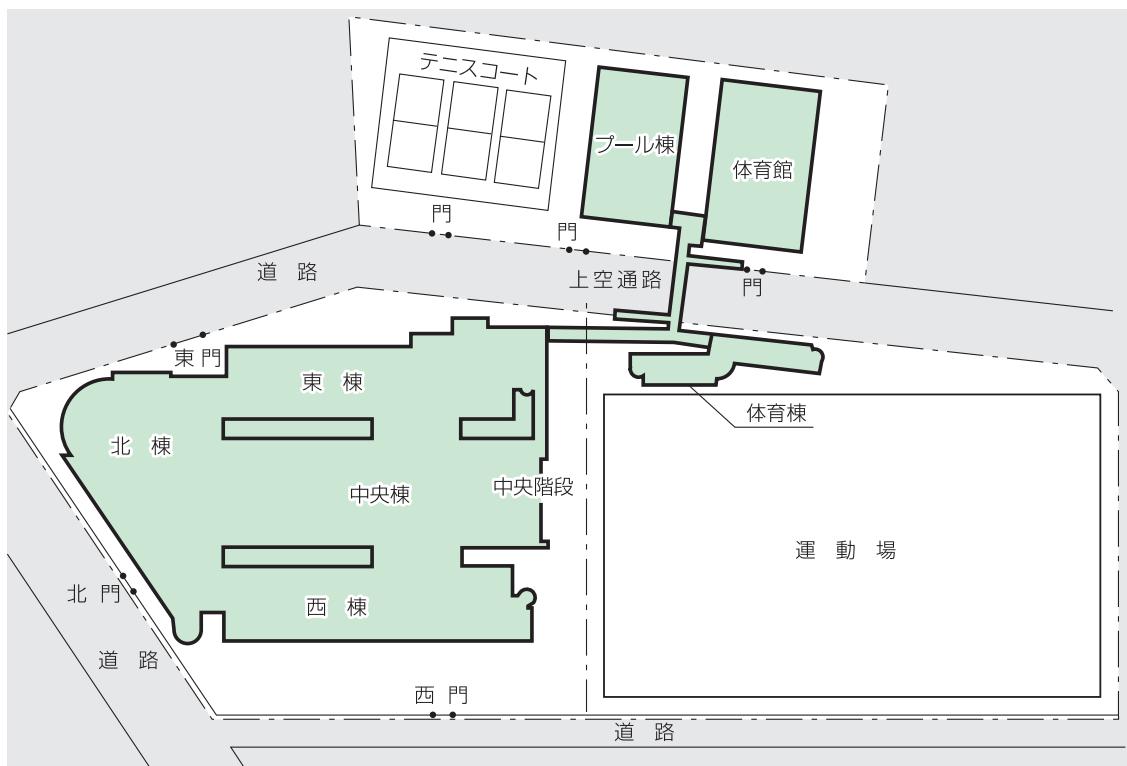


3 建築概要

規 模	地上 7 階	塔屋 1 階
-----	--------	--------

構 造	校舎棟	鉄骨鉄筋コンクリート造
	体育館	鉄骨鉄筋コンクリート造
	体育棟	鉄筋コンクリート造
	プール棟	鉄筋コンクリート造

● 学校配置図（品川キャンパス）



荒川キャンパス

1 土地

校地総面積	48,370.10 m ²
-------	--------------------------



2 建物

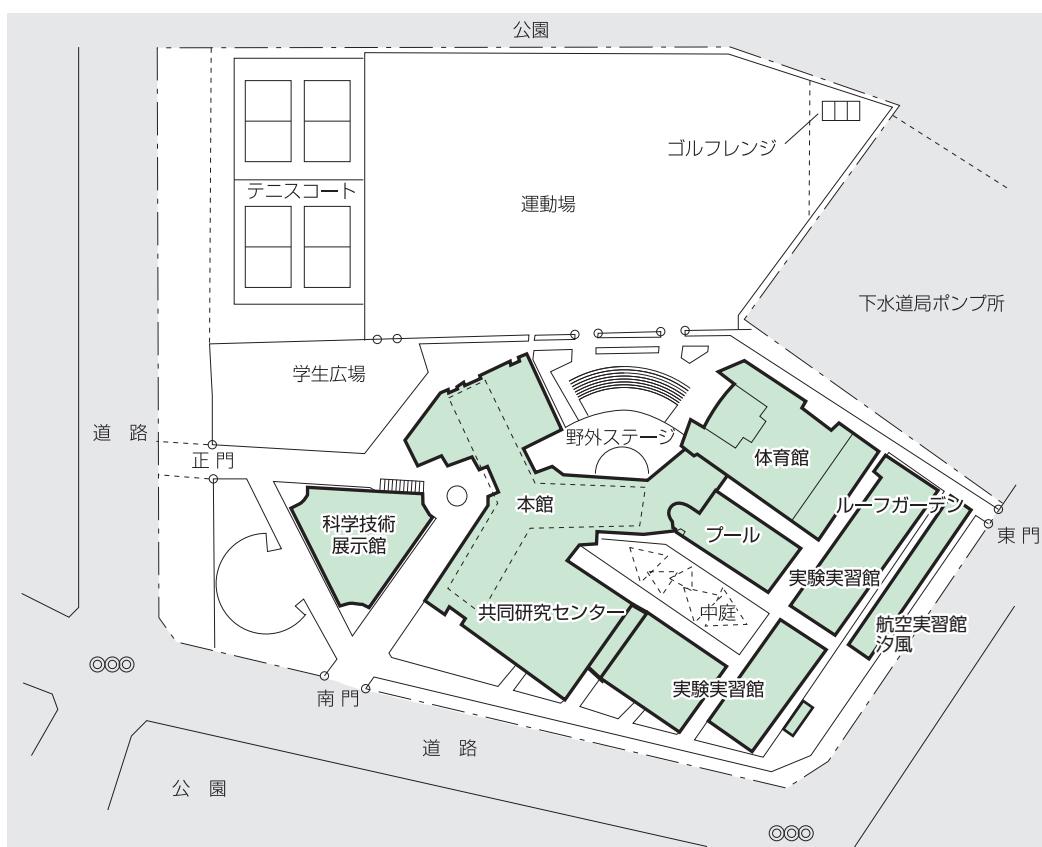
	延べ床面積
本館	21,325.83 m ²
体育館	3,271.79 m ²
実験実習館	4,986.66 m ²
科学技術展示館	1,235.27 m ²
航空実習館	612.69 m ²
その他	64.00 m ²
計	31,496.24 m ²

3 建築概要

規 模	地上 9 階	塔屋 1 階
-----	--------	--------

構 造	本館	鉄骨鉄筋コンクリート造（多目的ホール屋根：鉄骨造）
	体育館	鉄筋コンクリート造（柔道・小体育館：鉄骨鉄筋コンクリート造） （アリーナ屋根：鉄骨造）
	実験実習館	鉄筋コンクリート造（プール下部：鉄骨鉄筋コンクリート造）
	科学技術展示館	鉄筋コンクリート造（屋根：立体トラス構造）
	航空実習館	鉄骨造

● 学校配置図（荒川キャンパス）



沿革

東京都立工業高等専門学校 (品川キャンパス)

昭和10年4月1日 東京府立電機工業学校開校
 昭和18年7月1日 東京都立電機工業学校へ改称
 昭和22年4月1日 併設中学校開校
 昭和23年4月1日 東京都立鮫洲新制高等学校へ改称
 昭和24年3月31日 併設中学校閉校
 昭和25年1月26日 東京都立大学付属工業高等学校へ改称
 昭和32年4月1日 東京都立工業短期大学付属工業高等学校開校
 昭和35年3月31日 東京都立大学付属工業高等学校閉校
 昭和37年3月31日 東京都立工業短期大学附属工業高等学校閉校
 昭和37年4月1日 東京都立工業高等専門学校開校
 学校教育法の一部改正により、東京都立工業短期大学付属工業高等学校全日制の36年度1、2年生を志望と認定により東京都立工業高等専門学校2、3年に全員編入
 昭和41年12月1日 電気主任技術者第二種の資格学校として認定（通商産業省告示第577号）
 昭和48年4月1日 電気工学科1学級増設（2学級）
 昭和62年10月24日 創立25周年記念式典挙行
 平成2年3月31日 プール新築、テニスコート改修
 平成8年4月1日 新学科開設（生産システム工学科、電子情報工学科各1学級）
 平成11年1月29日 新校舎竣工
 平成12年9月1日 グラウンド竣工
 平成13年3月30日 体育館棟改修工事竣工
 平成13年5月25日 学科改組・新校舎完成記念事業挙行
 平成18年3月31日 東京都立工業高等専門学校募集停止
 平成22年3月31日 東京都立工業高等専門学校閉校

東京都立航空工業高等専門学校 (荒川キャンパス)

昭和13年4月1日 東京府立航空工業学校開校
 昭和18年7月1日 東京都立航空工業学校へ改称
 昭和21年2月7日 東京都立城北工業学校へ改称
 昭和22年4月1日 併設中学校開校
 昭和23年4月1日 東京都立城北工業高等学校へ改称
 昭和24年3月31日 城北工業学校並びに併設中学校を閉校
 昭和30年4月1日 東京都立航空工業高等学校へ改称
 昭和37年4月1日 東京都立航空工業高等専門学校開校
 昭和39年3月31日 東京都立航空工業高等学校閉校
 昭和44年8月12日 工場棟竣工
 昭和45年8月14日 中校舎竣工
 昭和46年6月23日 北校舎竣工
 昭和47年12月21日 体育館竣工
 昭和55年4月1日 学生食堂開設
 昭和62年10月31日 創立25周年記念式典挙行
 平成元年4月1日 新学科開設
 平成3年3月30日 科学技術展示館竣工
 平成4年12月16日 新校舎（本館、実験実習館、体育館）竣工
 平成9年3月31日 グラウンド竣工
 平成17年2月 高等専門学校機関別認証評価（試行的評価）（大学評価・学位授与機構）を受け、概ね良好との評価を得る
 平成18年3月31日 東京都立航空工業高等専門学校募集停止
 平成22年3月31日 東京都立航空工業高等専門学校閉校

平成18年4月1日 東京都立産業技術高等専門学校開校

平成18年4月1日 東京都立工業高等専門学校と東京都立航空工業高等専門学校を統合・再編し、東京都立産業技術高等専門学校が開校、専攻科設置
 平成20年4月1日 公立大学法人首都大学東京へ移管
 平成25年3月 大学評価・学位授与機構が実施する高等専門学校機関別認証評価を受審し、機構が定める評価基準を満たしているとの評価結果を受ける
 平成25年5月31日 新たにシンボルマーク、シンボルカラー、スローガンを決定
 平成27年6月1日 荒川キャンパスのグラウンドを人工芝に整備
 平成28年4月1日 情報セキュリティ技術者育成プログラム、航空技術者育成プログラムを開設
 平成31年3月29日 荒川キャンパス 航空実習館「汐風」竣工
 平成31年3月 大学評価・学位授与機構が実施する高等専門学校機関別認証評価を受審し、機構が定める評価基準を満たしているとの評価結果を受ける
 令和2年4月1日 東京都公立大学法人へ名称変更

2025 年度 学校要覧

2025 年 7 月発行

編集・発行 東京都公立大学法人

東京都立産業技術高等専門学校

〒140-0011 東京都品川区東大井一丁目10番40号

電話 03-3471-6331

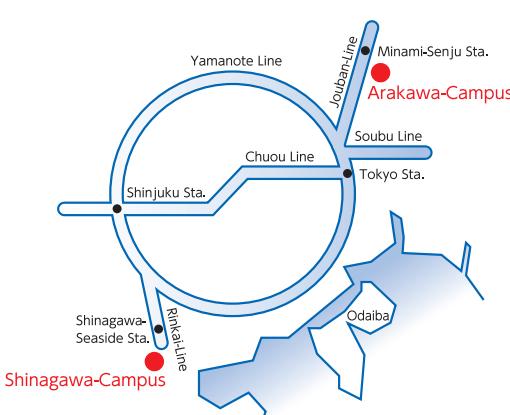
印 刷 所 株式会社 マステック



高専品川キャンパス



高専荒川キャンパス



東京都公立大学法人
東京都立産業技術高等専門学校
www.metro-cit.ac.jp



高専品川キャンパス
〒140-0011 東京都品川区東大井 1-10-40
TEL 03-3471-6331
FAX 03-3471-6338

高専荒川キャンパス
〒116-8523 東京都荒川区南千住 8-17-1
TEL 03-3801-0145
FAX 03-3801-9898



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。